

## **第Ⅰ部 大学院人文社会系研究科・文学部の概況**



# 1. 大学院人文社会系研究科・文学部の沿革と機構

## (1) 沿革

### A 学部の沿革（年譜）

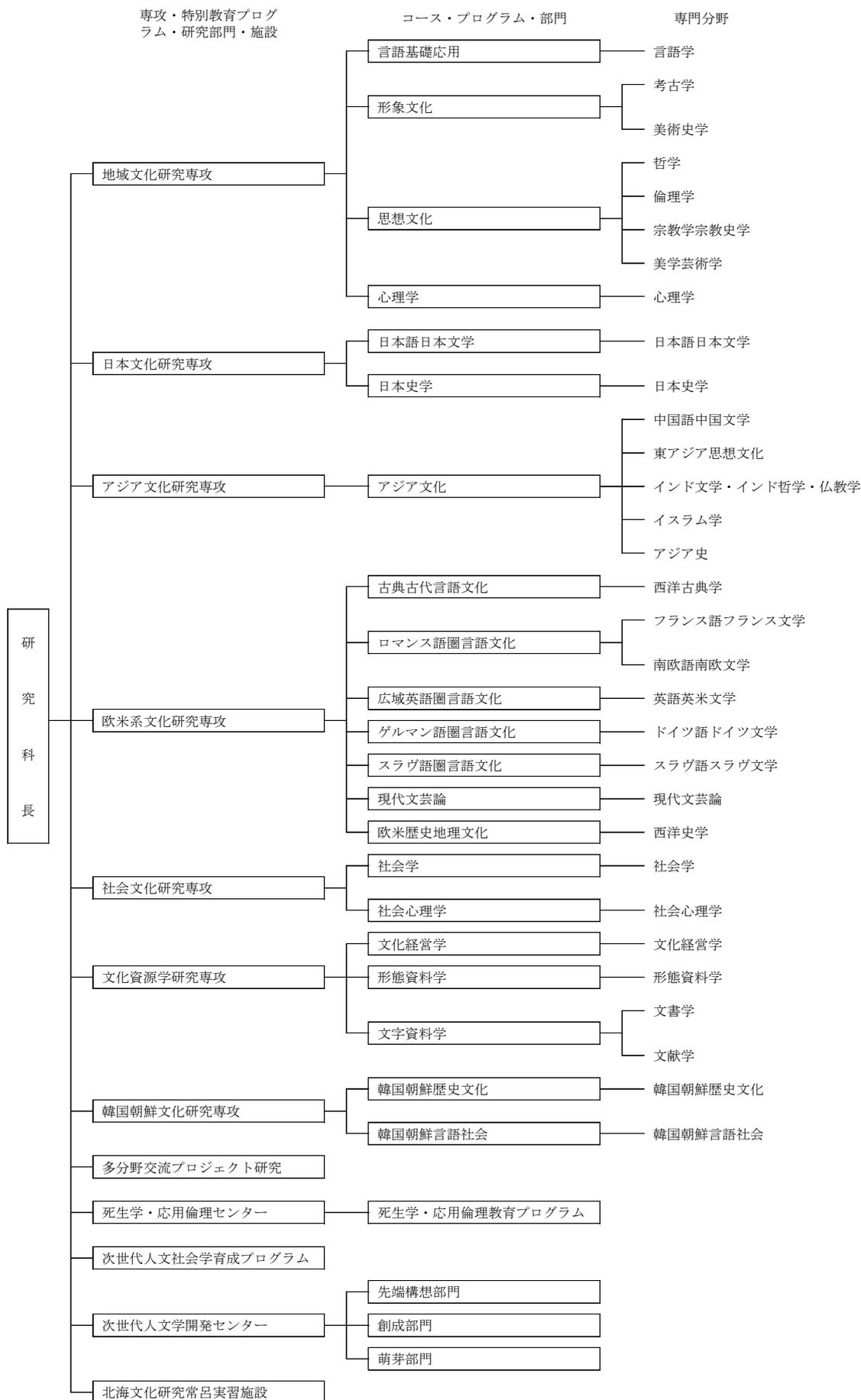
東京大学	文学部	明治10(1877), 4・東京大学設立	(2学科) 第一 史学, 哲学及政治学科 第二 和漢文学科
		明治12(1879), 9 《明治13(1880), 7・第1回卒業生8名》	「第一 史学, 哲学及政治学科」を『第一哲学政治学及理財学科』とする
		明治14(1881), 9	(3学科) 第一 哲学科 第二 政治学及理財学科 第三 和漢文学科
		明治18(1885), 12	(3学科) 第一 哲学科 第二 和文学科 第三 漢文学科 (政治学, 理財学は法政学部へ編入 法政学部は翌年法科大学となる)
帝国大学	文科大学	明治19(1886), 3・帝国大学令	(4学科) 『第四 博言学科』を増設
		明治20(1887), 9	(7学科) 第一 哲学科 第二 和文学科 第三 漢文学科 第四 史学科 第五 博言学科 第六 英文学科 第七 独逸文学科
		明治22(1889), 6	(8学科) 『国史科』を増設 「和文学科」を『国文学科』とする 「漢文学科」を『漢学科』とする
		明治22(1889), 12	(9学科) 『仏蘭西文学科』を増設
		明治28(1895), 4	史料編纂掛設置
		明治33(1900), 6	「博言学科」を『言語学科』とする
		明治37(1904), 9	(3学科) 哲学科 史学科 文学科
東京帝国大学	文学部	明治43(1910), 9	(3学科 19専修学科) 第一 哲学科—哲学, 支那哲学, 印度哲学, 心理学, 倫理学, 宗教学, 美学, 教育学, 社会学 第二 史学科—国史学, 東洋史学, 西洋史学 第三 文学科—国文学, 支那文学, 梵文学, 英吉利文学, 独逸文学, 仏蘭西文学, 言語学
		大正6(1917), 9	「宗教学」を『宗教学宗教史』とする 「美学」を『美学美術史』とする
		大正8(1919), 4・帝国大学令改定(大正7(1918), 12・大学令制定にともない)	(19学科)
		大正8(1919), 9 《大正10(1921), 4・学年暦変更「9月~7月」を『4月~3月』とする》	国文学, 国史学, 支那哲学, 支那文学, 東洋史学, 西洋史学, 哲学, 印度哲学, 心理学, 倫理学, 宗教学宗教史, 社会学, 教育学, 美学美術史, 言語学, 梵文学, 英吉利文学, 独逸文学, 仏蘭西文学
		昭和4(1929), 7	史料編纂掛を史料編纂所と改称する
		昭和7(1932), 4 《昭和18(1943), 12・学徒出陣》	(17学科) 「支那哲学」「支那文学」を『支那哲学支那文学』とする 「印度哲学」「梵文学」を『印度哲学梵文学』とする
		昭和21(1946), 3 《昭和21(1946), 4・女子学生9名入学》	(3学科 21専修科) 哲学科—哲学, 支那哲学, 印度哲学, 心理学, 倫理学, 宗教学, 社会学, 教育学, 美学, 美術史学 史学科—国史学, 東洋史学, 西洋史学, 考古学 文学科—言語学, 国文学, 支那文学, 梵文学, 英吉利文学, 独逸文学, 仏蘭西文学 能率研究室 航空研究所より移管
		昭和23(1948), 4	「支那哲学」を『中国哲学』とする 「支那文学」を『中国文学』とする
		昭和24(1949), 4	(19学科) 国文学, 国史学, 中国哲学, 中国文学, 東洋史学, 西洋史学, 哲学, 印度哲学梵文学, 心理学, 倫理学, 宗教学, 社会学, 教育学, 美学美術史, 言語学, 英吉利文学, 独逸文学, 仏蘭西文学, 考古学
		昭和25(1950), 4	「宗教学」を『宗教学宗教史学』とする 「美学美術史」を『美学美術史学』とする 史料編纂所が文学部附属から東京大学附置研究所となる
東京大学	文学部	昭和26(1951), 4 《昭和26(1951), 4・教養学部より第1回新制学生進学》	(18学科) 「教育学科」を廃止する (昭和24年教育学部設立にともなう措置)

東京大学 文学部	昭和38(1963), 4	(4類 21専修課程) 第一類(文 化 学)－哲学, 中国哲学, 印度哲学, 印度文学, 倫理学, 宗教学, 宗教史学, 美学, 美術史学 第二類(史 学)－国史学, 東洋史学, 西洋史学, 考古学 第三類(語学文学)－言語学, 国語国文学, 中国語中国文学, 英語英米文学, ドイツ語ドイツ文学, フラン ス語フランス文学, 西洋近代語近代文学, 西洋古典学 第四類(心理学, 社会学)－心理学, 社会学
	昭和39(1964), 4	語学ラボラトリー設置
	昭和41(1966), 4	文化交流研究施設設置
	昭和42(1967), 4	第一類「美学」を『美学芸術学』とする
	昭和43(1968), 4	「第一類 美術史学」を『第二類 美術史学』とする
	昭和47(1972), 4	(4類 22専修課程) 『第三類 ロシア語ロシア文学』を増設
	昭和48(1973), 4	北海文化研究常呂実習施設設置
	昭和49(1974), 4	(4類 23専修課程) 『第四類 社会心理学』を増設
	昭和50(1975), 4	(4類 24専修課程) 第三類「国語国文学」を『国語学』『国文学』とする 「外国人留学生相談室」を開設
	昭和54(1979), 4	(4類 25専修課程) 『第三類 イタリア語イタリア文学』を増設 「第四類(心理学, 社会学)」を『第四類(行動学)』とする
	昭和57(1982), 4	(4類 26専修課程) 『第一類 イスラム学』を増設
	昭和59(1984), 9	語学ラボラトリーを視聴覚教育センターと改称する
	昭和60(1985), 4	「外国人留学生相談室」を「国際交流室」に改称する
	昭和63(1988), 4	(4類 27専修課程) 第一類「印度哲学・印度文学」を『第一類 印度哲学』『第三類 印度語印度文学』とする
	平成4(1992), 4	能率研究室を認知科学研究室に改称する
	平成5(1993), 4	文化交流研究施設の拡充 基礎理論部門 朝鮮文化部門
	平成6(1994), 4	(4類 26専修課程) 第一類「中国哲学」, 「印度哲学」を『第一類 中国思想文化学』, 『第一類 インド哲学仏教学』に, 第二類「国史学」を『第二類 日本史学』に, 第三類「印度語印度文学」, 「ロシア語ロシア文学」, 「イタリア語 イタリア文学」を『第三類 インド語インド文学』, 『第三類 スラヴ語スラヴ文学』, 『第三類 南欧語南欧文学』とし, 第三類「国語学」, 「国文学」を『第三類 日本語日本文学』とする 文化交流研究施設の拡充 基礎理論部門 朝鮮文化部門 東洋諸民族言語文化部門
	平成7(1995), 4	第一類(文 化 学)を『思想文化学科』に改称 第二類(史 学)を『歴史文化学科』に改称 第三類(語学文学)を『言語文化学科』に改称 第四類(行 動 学)を『行動文化学科』に改称
	平成19(2007), 4	思想文化学科「宗教学・宗教史学」を『宗教学宗教史学』に改称 言語文化学科「西洋近代語近代文学」を『現代文芸論』に改称 (現在4学科 26専修課程) 思想文化学科－哲学, 中国思想文化学, インド哲学仏教学, 倫理学, 宗教学宗教史学, 美学芸術学, イスラム学 歴史文化学科－日本史学, 東洋史学, 西洋史学, 考古学, 美術史学 言語文化学科－言語学, 日本語日本文学, 中国語中国文学, インド語インド文学, 英語英米文学, ドイツ語 ドイツ文学, フランス語フランス文学, スラヴ語スラヴ文学, 南欧語南欧文学, 現代文芸論, 西洋古典学 行動文化学科－心理学, 社会心理学, 社会学

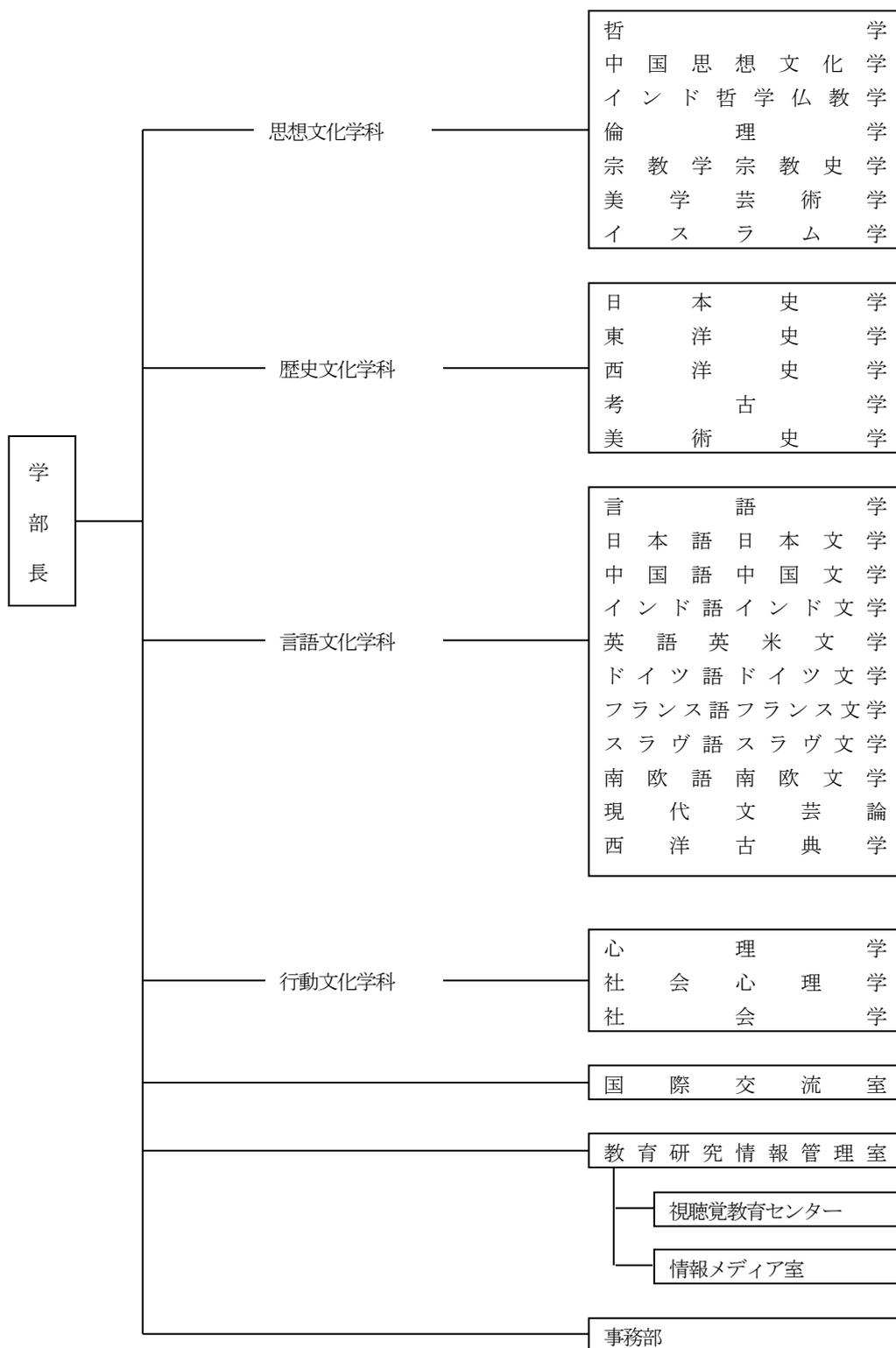
B 人文社会系研究科の沿革 (年譜)

人文科学研究科	昭和28(1953), 4 東京大学大学院 (新制) 設立	人文科学研究科 (24専門課程) 国語国文学, 中国語中国文学, 西洋古典学, 英語英文学, 独語独文学, 仏語仏文学, 比較文学比較文化, 言語学, 国史学, 東洋史学, 西洋史学, 考古学, 哲学, 中国哲学, 印度哲学, 倫理学, 宗教学宗教史学, 美学美術史学, 心理学, 教育学, 教育心理学, 学校教育学, 教育行政学, 体育学 社会科学部研究科 (10専門課程) 公法, 民刑事法, 基礎法学, 政治, 国際関係論, 理論経済学経済史学, 応用経済学, 商業学, 農業経済学, 社会学
	昭和38(1963), 4 研究科の改編にともない, 教育学研究科, 法学政治学研究科, 経済学研究科, 社会学研究科設立	人文科学研究科 (19専門課程) 国語国文学, 中国語中国文学, 西洋古典学, 英語英文学, 独語独文学, 仏語仏文学, 比較文学比較文化, 言語学, 国史学, 東洋史学, 西洋史学, 考古学, 哲学, 中国哲学, 印度哲学, 倫理学, 宗教学宗教史学, 美学美術史学, 心理学 社会学研究科 (2専門課程) 国際関係論, 社会学
	昭和39(1964), 4	人文科学研究科 (20専門課程) 美学美術史学専門課程を改組し, 『美学専門課程』, 『美術史学専門課程』設置
	昭和40(1965), 4	社会学研究科 (3専門課程) 『文化人類学専門課程』設置
	昭和42(1967), 4	人文科学研究科 (20専門課程) 『美学専門課程』を『美学芸術学専門課程』に改称
	昭和49(1974), 4	人文科学研究科 (21専門課程) 『露語露文学専門課程』設置
	昭和51(1976), 4	社会学研究科 (4専門課程) 『社会心理学専門課程』設置
	昭和58(1983), 4	人文科学研究科 (20専門課程) 比較文学比較文化専門課程を総合文化研究科に振替 社会学研究科 (3専門課程) 国際関係論専門課程を総合文化研究科に振替
	昭和60(1985), 4	人文科学研究科 (20専門課程) 印度哲学専門課程を『印度哲学印度文学専門課程』に改称
	昭和62(1987), 4	専門課程を専攻に変更
昭和63(1988), 4	社会学研究科 (2専攻) 文化人類学専攻を総合文化研究科に振替	
社会科学部研究科	平成7(1995), 4 人文科学研究科と社会学研究科の合流による再編にともない, 人文科学研究科の『人文社会系研究科』への名称変更, 社会学研究科の廃止	人文社会系研究科 (5専攻) 基礎文化研究専攻 日本文化研究専攻 アジア文化研究専攻 欧米系文化研究専攻 社会文化研究専攻 『多分野交流プロジェクト研究』の設置
	平成12(2000), 4	人文社会系研究科 (6専攻) 『文化資源学研究専攻』設置
	平成14(2002), 4	人文社会系研究科 (7専攻) 『韓国朝鮮文化研究専攻』設置
	平成16(2004), 4	文化交流研究施設 東洋諸民族言語文化部門を『基礎文化研究専攻・言語応用コース・言語動態学専門分野』に改組 社会文化研究専攻・社会情報学コース・社会情報学専門分野を情報学環に振替
	平成17(2005), 4	文化交流研究施設を改組し, 『次世代人文学開発センター』を設置
	平成19(2007), 4	欧米系文化研究専攻内に現代文芸論コース・現代文芸論専門分野を設置
	平成20(2008), 4	韓国朝鮮文化研究専攻を『韓国朝鮮歴史文化コース・韓国朝鮮歴史文化専門分野』及び韓国朝鮮言語社会コース・韓国朝鮮言語社会専門分野』に改組
	平成21(2009), 4	『基礎文化研究専攻・言語基礎コース・言語学専門分野』と『基礎文化研究専攻・言語応用コース・言語動態学専門分野』を統合し, 『基礎文化研究専攻・言語基礎応用コース・言語学専門分野』に改組 アジア文化研究専攻を改組し, 『アジア文化研究専攻・アジア文化コース・中国語中国文学専門分野, 東アジア思想文化専門分野, インド文学・インド哲学・仏教学専門分野, イスラム学専門分野, アジア史専門分野』を設置
	平成23(2011), 4	『死生学・応用倫理センター』の設置
	人文社会系研究科	(現在 7専攻) 基礎文化研究専攻 言語基礎応用コース (言語学) 形象文化コース (考古学, 美術史学) 思想文化コース (哲学, 倫理学, 宗教学宗教史学, 美学芸術学) 心理学コース (心理学) 日本文化研究専攻 日本語日文学コース (日本語日文学) 日本史学コース (日本史学) アジア文化研究専攻 アジア文化コース (中国語中国文学, 東アジア思想文化, インド文学・インド哲学・仏教学, イスラム学, アジア史)  欧米系文化研究専攻 古典古代言語文化コース (西洋古典学) ロマンス語圏言語文化コース (フランス語フランス文学, 南欧語南欧文学) 広域英語圏言語文化コース (英語英米文学) ゲルマン語圏言語文化コース (ドイツ語ドイツ文学) スラヴ語圏言語文化コース (スラヴ語スラヴ文学) 現代文芸論コース (現代文芸論) 欧米歴史地理文化コース (西洋史学) 社会文化研究専攻 社会学コース (社会学) 社会心理学コース (社会心理学) 文化資源学研究専攻 文化経営学コース (文化経営学) 形態資料学コース (形態資料学) 文字資料学コース (文書学, 文献学) 韓国朝鮮文化研究専攻 韓国朝鮮歴史文化コース (韓国朝鮮歴史文化) 韓国朝鮮言語社会コース (韓国朝鮮言語社会) 多分野交流プロジェクト研究 次世代人文学開発センター 死生学・応用倫理センター

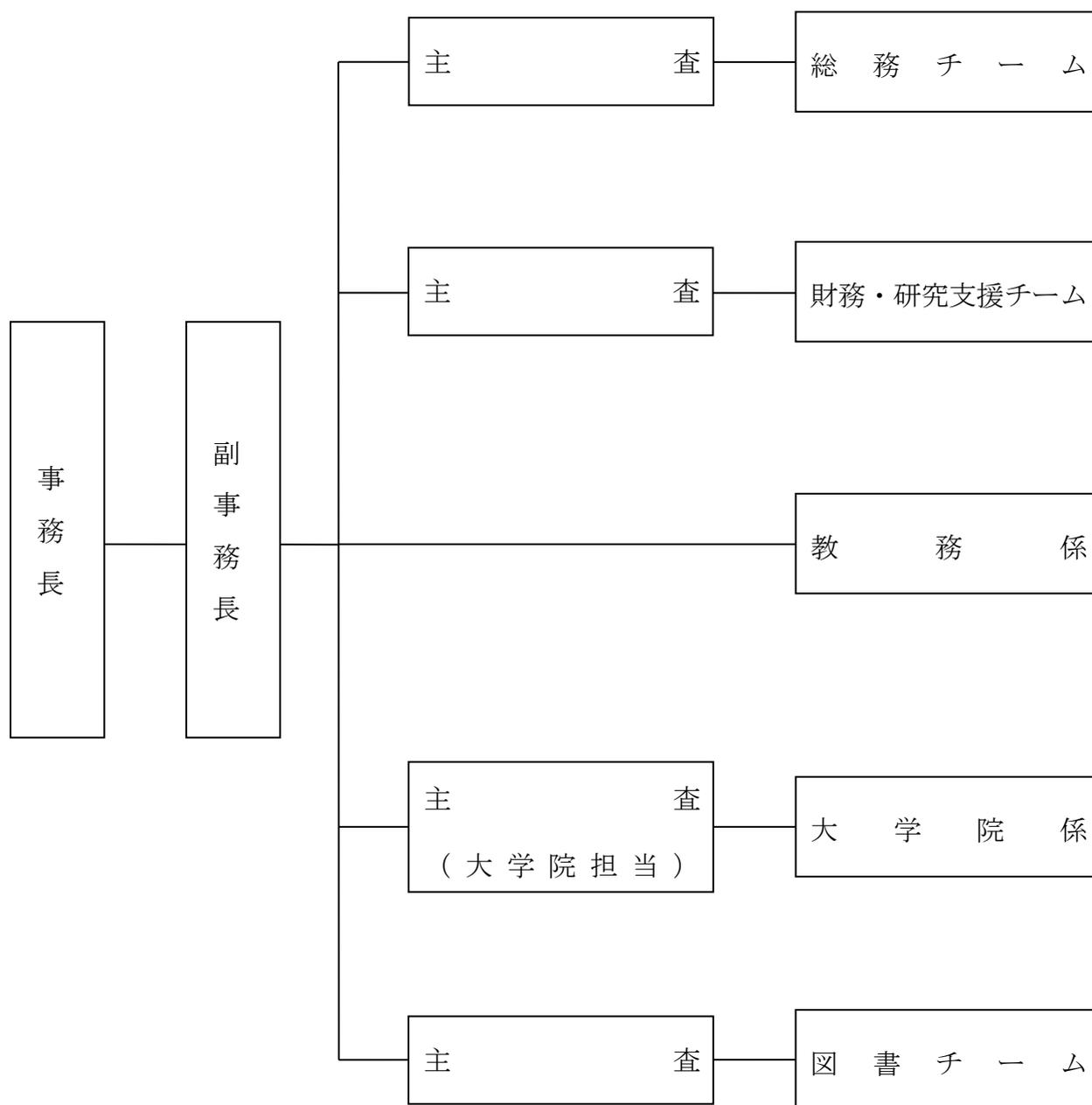
## (2) 大学院人文社会系研究科の機構



(3) 文学部の機構



(4) 事務組織



## (5) 施設・設備

(平成24(2012)年度現在)

法文1号館	建築年	昭和4(1929)・40(1965)	構造	R3-1
		昭和51(1976)	構造	R+1
	建物面積	3,964 m <sup>2</sup>	総建物面積	10,723 m <sup>2</sup>
法文2号館	建築年	昭和4(1929)・42(1967)	構造	R4-1
		昭和51(1976)	構造	R+1
		昭和56(1981)	構造	S+1
	建物面積	12,857 m <sup>2</sup>	総建物面積	15,390 m <sup>2</sup>
文学部3号館	建築年	昭和62(1987)	構造	R8-2
	建物面積	3,547 m <sup>2</sup>	総建物面積	3,547 m <sup>2</sup>
アネックス	建築年	平成9(1997)	構造	S2
	建物面積	580 m <sup>2</sup>	総建物面積	580 m <sup>2</sup>
総合研究棟	建築年	平成7(1995)	構造	R7
	建物面積	657 m <sup>2</sup>	総建物面積	3,942 m <sup>2</sup>
赤門総合研究棟	建築年	昭和40(1965)	構造	R8-1
	建物面積	2,946 m <sup>2</sup>	総建物面積	14,625 m <sup>2</sup>

### 北海文化研究常呂実習施設

土地面積	所有	1,036 m <sup>2</sup>					
	借用	5,590 m <sup>2</sup>					
建 物	所有	車 庫	建築年	昭和41(1966)	構造	B1	
					総建物面積	38 m <sup>2</sup>	
			資料保存センター	建築年	昭和43(1968)	構造	W2
					総建物面積	175 m <sup>2</sup>	
			新学生宿舎	建築年	平成15(2003)	構造	R2
					総建物面積	338 m <sup>2</sup>	
	借用	資 料 館	建築年	昭和42(1967)	構造	R3	
				総建物面積	343 m <sup>2</sup>		
	物 置	建築年	昭和41(1966)	構造	W1		
				総建物面積	29 m <sup>2</sup>		
	研 究 棟	建築年	昭和41(1966)	構造	W2		
				総建物面積	288 m <sup>2</sup>		

## 2. 教育とその成果

### (1) 入学と進学

#### A 学部への進学・学士入学等

平成22(2010)年文学部学生数

平成22(2010)年4月1日現在

	2004		2005		2006		2007			2008			2009				2010				計
	進学	進学	進学	進学	進学	学士	再入	進学	学士	再入	進学	学士	再入	転学	進学	学士	再入	転学			
哲学			1					9			19(2)	1		1	19(3)		1	2	57(6)		
中思文											3				2				5		
印哲					1			1(1)				2			3(1)	2(1)			9(3)		
倫理					1			3(1)		1	11(1)				14(1)				30(3)		
宗教学					2(1)			9(2)	1(1)		16(9)	1(1)	1	1	17(3)				48(17)		
美学			1(1)		3	2(1)		8(4)			16(11)	1(1)		1	13(2)	1(1)		1(1)	47(22)		
イ学					3			1			4				2(1)				10(1)		
計			2(1)		14(2)	2(1)		31(8)	1(1)	1	69(23)	5(2)	1	3	70(11)	3(2)	1	3(1)	206(52)		
日本史					2(1)			4(2)			24(6)				27(5)				57(14)		
東洋史			1				1			1	19(7)	1			24(3)				48(10)		
西洋史			1(1)		1(1)			8(2)			23(2)		2		25(8)				60(14)		
考古								3(2)			4								12(2)		
美術史					3(2)			4(1)	2(1)		17(9)	2(2)			15(5)	2(2)			45(22)		
計			2(1)		7(4)		1	20(7)	2(1)	1	87(24)	3(2)	2		95(21)	2(2)			222(62)		
言語	1		1(1)		1			4(2)			15(2)				11(6)				33(11)		
国語					2(1)			5(1)			6(1)				10(2)				23(5)		
国文					1			6			23(4)				21(6)				51(10)		
中文											1(1)	1			1				3(1)		
印文					1			1(1)											2(1)		
英文					2			10(4)		1	26(9)	1(1)	1	1(1)	26(9)	2(1)	1		71(25)		
独文		1									4(1)	1(1)			1				7(2)		
仏文					1			4			16(7)	3			5(3)				31(10)		
スラヴ								1		1(1)	1(1)				4(1)				7(3)		
南欧文					1						2(1)								3(1)		
現文			1		3			4	2	1(1)	8(4)	1(1)		1	9(4)		1(1)		29(13)		
西古			1					2	1(1)		2	1(1)							7(2)		
計	1	1	4(1)		12(1)			37(10)	2(2)	2(1)	104(31)	8(4)	1	2(1)	87(31)	3(1)	3(1)		267(84)		
心理			1(1)					7(3)			22(10)		1		23(6)		1		55(20)		
社心					1			8(1)			22(10)				22(6)				53(17)		
社					3	1		17(10)	1		47(15)	2(2)			51(21)	1			123(48)		
計			1(1)		4	1		32(14)	1		91(35)	2(2)	1		96(33)	1	1		231(85)		
合計	1	1	9(4)		37(7)	3(1)	1	120(39)	6(4)	4(1)	351(113)	18(10)	5	5(1)	348(96)	9(5)	5(1)	3(1)	926(283)		

( )は、女子で内数。

平成23(2011)年文学部学生数

平成23(2011)年4月1日現在

	2006		2007		2008		2009			2010				2011				計
	進学	進学	進学	進学	進学	学士	再入	進学	学士	再入	転学	進学	学士	再入	転学			
哲学			4		10			19(3)		1	2	20				56(3)		
中思文					1			2				2				5		
印哲								4(1)	2(1)			3(1)	1	1		11(3)		
倫理			1(1)		7(1)			14				15		1		38(2)		
宗教学			1		8(6)			17(3)				13(5)	1			40(14)		
美学	1(1)		1		5(2)		1(1)	14(3)	1(1)		1(1)	15(6)				39(15)		
イ学		1			2			2(1)				1		1		7(1)		
計	1(1)	1	7(1)		33(9)		1(1)	72(11)	3(2)	1	3(1)	69(12)	2	3		196(38)		
日本史		1(1)	2(2)		4(1)			28(5)				24(7)				59(16)		
東洋史	1				8(4)			23(3)				13		1		46(7)		
西洋史			2(1)		11(2)			25(8)				25(5)		3(1)		67(17)		
考古			1(1)		1			4				8(2)				14(3)		
美術史					1(1)			14(5)	2(2)			16(6)		1(1)		40(18)		
計	1	1(1)	5(4)	1(1)	30(10)		1	94(21)	2(2)			86(20)		5(2)		226(61)		
言語	1(1)		1		5(1)			10(6)				16(7)				33(15)		
国語			2(1)		4(1)			9(2)				9(2)				24(6)		
国文			3		5			21(6)				23(11)				52(17)		
中文							1				1	1		1(1)		5(1)		
印文												1				1		
英文			2(1)		10		1	26(9)	2(1)	1		25(6)	1		2	70(17)		
独文								1				2(1)	2(2)			5(3)		
仏文			1		9(3)	2		5(3)		1		6(1)	1	1	2	28(7)		
スラヴ								4(1)					1			5(1)		
南欧文					1							2	1(1)			5(1)		
現文	1	1			2			9(4)				8(1)		1	1	23(5)		
西古			1		2								2(1)		2(1)	7(2)		
計	2(1)	2	10(2)		38(5)	3	1	85(31)	3(1)	2		93(29)	9(4)	2	8(2)	258(75)		
心理			1		6(1)			23(6)		1		24(4)		1		56(11)		
社心		1			2(1)			7(4)				22(6)				54(17)		
社			5(2)	1	10(3)			51(21)	1			51(22)	2(1)			121(49)		
計		1	8(3)	1	23(8)			96(33)	1	1		97(32)	2(1)	1		231(77)		
合計	4(2)	5(1)	30(10)	2(1)	124(32)	4(1)	2	347(96)	9(5)	4	3(1)	345(93)	13(5)	11(2)	8(2)	911(251)		

( )は、女子で内数。

B 学士入学試験の実施状況

専修課程	合格者				
	出願者		合格者		
	平成19(2007)年	平成20(2008)年	平成21(2009)年	平成22(2010)年	平成23(2011)年
思想文化					
哲学	0 9	1 7	0 13	0 10	2 8
中思文	0 2	0 1	0 0	0 3	0 0
印哲	1 3	2 7	2 7	1 6	2 5
倫理	0 2	0 4	募集なし	募集なし	募集なし
宗教	2 3	1 4	0 5	1 2	0 2
美学	1 6	1 10	1 7	0 9	0 3
イ学	0 1	0 0	0 1	0 1	0 0
小計	4 26	5 33	3 33	2 31	4 18
歴史文化					
日本史	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし
東洋史	0 1	1 2	0 4	0 3	0 0
西洋史	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし
考古	0 0	0 0	募集なし	募集なし	募集なし
美術史	3 10	2 5	2 8	0 1	1 3
小計	3 11	3 7	2 12	0 4	1 3
言語文化					
言語	0 2	0 1	0 2	0 1	1 5
国語	0 0	0 1	0 2	募集なし	募集なし
国文	0 4	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし
中文	0 1	1 2	1 3	1 2	2 3
印文	0 1	0 1	0 1	0 1	0 0
英文	1 8	2 6	2 10	2 5	0 6
独文	2 3	1 2	1 1	2 2	1 2
仏文	0 5	3 11	0 0	1 7	1 3
スラヴ	0 2	0 2	0 1	1 2	1 2
南欧文	2 5	0 1	0 4	1 1	0 0
現文	1 3	2 8	1 6	0 4	1 5
西古典	2 4	1 1	0 1	2 2	0 0
小計	8 38	10 36	5 31	10 27	7 26
行動文化					
社会	3 11	2 9	1 13	2 9	1 13
合計	18 86	20 85	11 89	14 71	13 60



平成23(2011)年度 大学院学生数

(注) ( )内は女性、○数字は外国人を示し、内数

専攻	コース	専門分野	修士課程				博士課程					
			2011年	2010年	09年以前	計	2011年	2010年	2009年	08年以前	計	
基礎文化研究	言語基礎	言語学	6 (1) ②	7 (1) ②	3 ①	16 (2) ⑤	1 (1)	6 (3) ①	1	7 (2) ①	15 (6) ②	
	言語応用	言語動態学							1	1		
	形象文化	考古学	2	5 (1)	3	10 (1)	3 (1)	1 (1)	1 (1)	1	6 (3)	
		美術史学	6 (5)	4 (4)	2 (2)	12 (11)	2 (1) ①	5 (4) ①	1	5 (3) ①	13 (8) ③	
	思想文化	哲学	9 (1)	6	3	18 (1)	5 (1)	2	3	12 (2)	22 (3)	
		倫理学	3 (2)	1	1	5 (2) ①	1	1	2	4 (1)	8 (1)	
		宗教学宗教史学	6 (3)	6 (1) ①	7 (3) ①	19 (7) ②	6 (3)	5 (1) ①	4 (2)	12 (4) ②	27 (10) ③	
		美学藝術学	1 (1)	2	1	4 (1)	3	2	3 (1) ①	3	11 (1) ①	
	心理学	心理学	4 (2)	2		6 (2)	1 (1)	4 (3)	1	1 (1) ①	7 (5) ①	
	日本文化研究	日本語日本文学	9 (6) ③	11 (5) ①	3 (1)	23 (12) ④	5 (2) ②	6 (3) ③	6 (4) ②	17 (7) ⑦	34 (16) ⑭	
日本史学		9 (4) ①	8 (2) ①		17 (6) ②	5 (1) ①	7 (2) ①	6 (2)	13 (4) ③	31 (9) ⑤		
アジア文化研究	東アジア	中国語中国文学	6 (5) ④	5 (5) ③	2 (1)	13 (11) ⑦	3 (2) ①	1	4 (4) ④	13 (8) ④	21 (14) ⑨	
		東アジア歴史社会							8 (4)	8 (4)		
		東アジア思想文化	1	4 (1) ②		5 (1) ②			4 (2) ①	1 (1)	5 (3) ①	
	南アジア・東南アジア・仏教	インド文学・インド哲学・仏教学	3	6 (1) ②	8 (1) ②	17 (2) ⑤	2 (1)	4	4 (1) ①	15 (6) ②	25 (8) ④	
		南アジア・東南アジア歴史社会							6 (4)	6 (4)		
	西アジア・イスラム学	イスラム学	1			1	2 (2)	1 (1) ①	1	5	9 (3) ①	
		西アジア歴史社会								5 (1) ①	5 (1) ①	
アジア文化	アジア史	3 (2) ②	1	1	5 (2) ②	2 (1)	5 (1) ①	3 (1) ①		10 (3) ②		
欧米系文化研究	古典古代言語文化	西洋古典学	2 (1)	1		3 (1)	2 (1)		3	5 (1)		
	ロマンス語圏言語文化	フランス語フランス文学	5 (4)	7 (2)	2 (1)	14 (7)	3	3 (1)	1 (1)	17 (9)	24 (11)	
		南欧語南欧文学	1 (1)	1	3 (2)	5 (3)				1	1	
	広域英語圏言語文化	英語英米文学	5 (3)	6 (3)	3	14 (6)	9 (6) ①	4 (2)	10 (3)	11 (3) ①	34 (14) ②	
	ゲルマン語圏言語文化	ドイツ語ドイツ文学	2 (1)	6 (3)	2 (2)	10 (6)	1 (1)	3 (2)	1 (1)	9 (5) ①	14 (9)	
	スラヴ語圏言語文化	スラヴ語スラヴ文学	2 (1) ①	3 (1)	2 (1)	7 (3) ①	2 (1)	1	1	5 (5) ①	9 (6) ①	
	現代文芸論	現代文芸論	6 (2) ①	8 (2) ②	4 (3)	18 (7) ③	3 (1)	3 (1)	4 (2) ③	2 (2)	12 (6) ③	
	欧米歴史地理文化	西洋史学	5	4	3	12	2	3 (3)		17 (5)	22 (8)	
	社会文化研究	社会学	社会学	8 ①	6 (3) ③	6 (4) ①	20 (7) ⑤	5 (1) ①	3 (2) ①	3 (1) ①	20 (4) ③	31 (8) ⑥
		社会心理学	社会心理学	2 (1) ①	4 (2) ②		6 (3) ③	4 (2) ②	4 (1)	2 (2) ①	5 (3) ③	15 (8) ③
社会情報学		社会情報学							1	1		
文化資源学研究	文化経営学	文化経営学	5 (4) ①	7 (5) ①	6 (2)	18 (11) ①	1 (1) ①	3 (3)		7 (5) ②	11 (9) ③	
	形態資料学	形態資料学	1 (1)	1 (1)	2	4 (2)	2 (2) ①		4 (3) ①	5 (4) ①	11 (9) ③	
	文字資料学	文書学	1	1		2				2 (2)	2 (2)	
		文献学	1		1 (1)	2 (1)				1	1	
韓国朝鮮文化研究	韓国朝鮮歴史社会	韓国朝鮮歴史社会							5 (2) ②	5 (2) ②		
	韓国朝鮮言語思想	韓国朝鮮言語思想							3 (1) ②	3 (1) ②		
	北東アジア文化交流	北東アジア文化交流							2 (2) ①	2 (2) ①		
	韓国朝鮮歴史文化	韓国朝鮮歴史文化	3 (1)		1 (1) ①	4 (2) ①	1 ①		1 (1) ①	4 ①	6 (1) ②	
	韓国朝鮮言語社会	韓国朝鮮言語社会	6 (5) ④	4 (4) ②	1 (1) ①	11 (10) ⑦	2 (2) ②	1 (1) ①	2 (2) ①	3 (1) ①	8 (6) ⑤	
合計		124 (57) ②②	127 (47) ②②	70 (26) ⑦	321 (130) ⑥①	78 (35) ⑬	78 (35) ⑫	73 (34) ⑬	252 (101) ⑧⑧	481 (205) ⑥②		

## (2) 教育の成果

### A 大学院の学位取得状況

学位取得者数

	平成 19(2007) 年度		平成 20(2008) 年度		平成 21(2009) 年度		平成 22(2010) 年度		平成 23(2011) 年度	
	修士	博士	修士	博士	修士	博士	修士	博士	修士	博士
人文社会系研究科	127	58(9)	103	75(15)	121	70(13)	108	68(7)	127	64(11)

( )はいわゆる論文博士で内数

### B 博士論文のオンデマンド出版

東京大学大学院人文社会系研究科では、2000年11月から富士ゼロックス(現在はコンテンツワークス株式会社)の運営するウェブサイトBook Parkを利用して、博士論文の公開を開始した。これは、インターネット上に、本研究科の審査に合格した博士論文のリストを掲示し、読者からの購入の希望に応じて当該論文の複写・製本サービスを提供するものである。

これは私たちの研究科における研究・教育の成果をより広く公開していくための方策の一つとしてなされている。博士論文は、その執筆者が研究者の仲間入りをしたことを示す確かな証であるとともに、大学院として研究と教育にあたった最新の成果でもある。したがって、博士論文の公開は、私たちのめざす情報公開と点検評価の推進の上で決定的な意味を持つことになるだろう。この企画は他の国立大学では前例のなかったものであるが、人文社会系大学院における研究成果を社会に還元するためのあらたな方法を、時代の要請に即した形で他に先駆けて実践しているものといえる。これが博士論文のオンデマンド出版を推進する最大の理由である。

さらに、こうした公開によって博士論文へのアクセスが容易になれば、後続の研究に対して、基礎的な情報源となるとともに、乗り越えなければならない目標を設定することにもなる。このような形で各研究分野の活動がさらに活性化されることも、当然の結果として期待している。同時に、本研究科の博士論文が多くの人々の目にとまることにより、書籍としての刊行につながる可能性を開くことになれば良いとも考えている。

オンデマンド出版サービスを開始して以来、2011年度末の時点でウェブサイト上にタイトルが掲載された博士論文の数は77点に達している。これには、最新の博士論文のほか、過去13年間に提出された博士論文、さらに本研究科博士課程出身者が海外の大学に提出した博士論文も含まれている。これまでは論文執筆者の希望に応じて公開を行ってきたが、今後は、オンデマンド出版による博士論文の公開を幅広くよびかけ、これを促進していく方向で事業をすすめている。なお、このサービスの詳細については文学部・人文社会系研究科のウェブサイト上にある博士論文ライブラリー (<http://www.bookpark.ne.jp/todai/>) を参照していただきたい。

### C 学部卒業生の進路

平成22(2010)年3月卒業生進路状況

専修課程	卒業生総数	進学者				就職者				未就職者				不明者	
		大学院	大学学部	研究生	計	企業	官庁	教育	その他	計	自宅勉強	アルバイト	その他		計
文学部全体	291 (100)	69 (22)	1 (1)	4 (4)	74 (27)	144 (48)	18 (6)	13 (6)	1 (0)	176 (60)	13 (7)	4 (1)	21 (4)	38 (12)	3 (1)

各学科内訳  
(思想文化学科)

専修課程	卒業生総数	進学者				就職者				未就職者				不明者	
		大学院	大学学部	研究生	計	企業	官庁	教育	その他	計	自宅勉強	アルバイト	その他		計
哲学	21 (2)	7 (2)			7 (2)	4	2	2		8 (0)	3		2	6 (0)	
中国思想文化学	0 (0)				0 (0)					0 (0)				0 (0)	
インド哲学仏教学	2 (0)	1			1 (0)					1 (0)				0 (0)	
倫理学	13 (3)	3 (2)		1 (1)	4 (3)	7	1			8 (0)			1	1 (0)	
宗教学・宗教学史	11 (5)	3 (1)			3 (1)	4 (1)	2 (1)			7 (3)	1 (1)			1 (1)	
美学芸術学	14 (4)	1 (1)			1 (0)	9 (2)				9 (2)	1	1 (1)	2 (1)	4 (2)	
イスラム学	1 (0)				0 (0)					0 (0)				1 (0)	
(思想文化学科 計)	62 (14)	15 (5)	0 (0)	1 (1)	16 (6)	24 (3)	5 (1)	3 (1)	1 (0)	33 (5)	5 (1)	2 (1)	1 (1)	13 (3)	0 (0)

(歴史文化学科)

専修課程	卒業生総数	進学者				就職者				未就職者				不明者	
		大学院	大学学部	研究生	計	企業	官庁	教育	その他	計	自宅勉強	アルバイト	その他		計
日本史学	20 (4)	5 (1)			5 (1)	11 (3)	2	2		15 (3)				4 (0)	
東洋史学	5 (3)		1 (1)		1 (1)	2 (1)				2 (1)				2 (1)	
西洋史学	19 (5)	5			5 (0)	11 (4)		2 (1)		13 (5)				1 (0)	
考古学	6 (0)	2			2 (0)	3				3 (0)				1 (0)	
美術史学	13 (9)	6 (4)			6 (4)	5 (4)		2 (1)		7 (5)				0 (0)	
(歴史文化学科 計)	63 (21)	18 (5)	1 (1)	0 (0)	19 (6)	32 (12)	2 (0)	6 (2)	0 (0)	40 (14)	0 (0)	0 (0)	4 (1)	4 (1)	0 (0)

(言語文化学科)

専修課程	卒業生総数	進学者				就職者				未就職者				不明者	
		大学院	大学学部	研究生	計	企業	官庁	教育	その他	計	自宅勉強	アルバイト	その他		計
言語学	12 (4)	5			5 (0)	6 (3)		1 (1)		7 (4)				0 (0)	
日本語日本文学(国語学)	10 (1)				0 (0)	5 (1)	2 (1)			7 (1)				3 (0)	
日本語日本文学(国文学)	16 (5)	6 (3)			6 (3)	5 (1)	1			7 (1)	1 (1)	1	2	4 (1)	
中国語中国文学	1 (1)	1 (1)			1 (1)					0 (0)				0 (0)	
インド語インド文学	0 (0)				0 (0)					0 (0)				0 (0)	
英語英米文学	22 (8)	2 (2)		1 (1)	3 (3)	11 (2)		2 (1)		13 (3)	1 (1)		4 (1)	5 (2)	1
ドイツ語ドイツ文学	3 (3)	2 (2)			2 (2)	1 (1)				1 (1)				0 (0)	
フランス語フランス文学	9 (1)	5			5 (0)	3 (1)				3 (1)				1 (0)	
スラヴ語スラヴ文学	1 (0)				0 (0)					0 (0)				0 (0)	
南欧諸国文学	4 (2)	1		1 (1)	2 (1)	1				1 (0)	1 (1)			1 (1)	
西洋古典学	2 (0)				1 (0)	1				1 (0)				0 (0)	
現代文芸論	5 (2)	2			2 (0)	2 (2)				2 (2)	1			1 (0)	
(言語文化学科 計)	85 (27)	26 (8)	0 (0)	2 (2)	28 (10)	35 (10)	3 (1)	3 (2)	0 (0)	41 (13)	5 (3)	1 (0)	9 (1)	15 (4)	1 (0)

(行動文化学科)

専修課程	卒業生総数	進学者				就職者				未就職者				不明者	
		大学院	大学学部	研究生	計	企業	官庁	教育	その他	計	自宅勉強	アルバイト	その他		計
心理学	20 (7)				0 (0)	15 (5)	2			17 (5)	1 (1)			2 (2)	
社会心理学	17 (9)	3 (1)			3 (1)	10 (5)	1 (1)	1 (1)		12 (7)	1 (1)		1	2 (1)	
社会学	44 (22)	6 (3)		1 (1)	7 (4)	28 (13)	5 (3)			32 (16)	1 (1)		1	2 (1)	2 (1)
(行動文化学科 計)	81 (38)	10 (4)	0 (0)	1 (1)	11 (5)	53 (23)	8 (4)	1 (1)	0 (0)	62 (28)	3 (3)	1 (0)	2 (1)	6 (4)	2 (1)

( )内は、女子で内数

平成23(2011)年3月卒業生進路状況

専修課程	卒業生総数	進学者				就職者				未就職者				不明者	
		大学院	大学学部	研究生	計	企業	官庁	教育	その他	計	自宅勉強	アルバイト	その他		計
文学部全体	370 (132)	94 (32)	0 (0)	0 (0)	94 (32)	193 (72)	20 (6)	2 (1)	2 (0)	217 (79)	14 (3)	1 (0)	34 (15)	49 (18)	10 (3)

各学科内訳  
(思想文化学科)

専修課程	卒業生総数	進学者				就職者				未就職者				不明者	
		大学院	大学学部	研究生	計	企業	官庁	教育	その他	計	自宅勉強	アルバイト	その他		計
哲学	20 (3)	9 (1)			9 (1)	8 (2)				8 (2)	2		1	3 (0)	
中国思想文化学	2 (0)				0 (0)	1				1 (0)				0 (0)	
インド哲学仏教学	3 (1)				0 (0)					0 (0)			1 (1)	1 (1)	1
倫理学	7 (0)				0 (0)	5				5 (0)				0 (0)	
宗教学・宗教学史	21 (8)	4 (2)			4 (2)	11 (4)	1			13 (4)	3 (1)		1	4 (2)	
美学芸術学	23 (14)	1 (1)			1 (1)	12 (6)		1 (1)		13 (7)			9 (6)	9 (6)	
イスラム学	3 (0)				0 (0)					0 (0)				1 (0)	
(思想文化学科 計)	79 (26)	18 (4)	0 (0)	0 (0)	18 (4)	39 (12)	1 (0)	1 (1)	1 (0)	42 (13)	6 (1)	0 (0)	12 (8)	18 (9)	1 (0)

(歴史文化学科)

専修課程	卒業生総数	進学者				就職者				未就職者				不明者	
		大学院	大学学部	研究生	計	企業	官庁	教育	その他	計	自宅勉強	アルバイト	その他		計
日本史学	23 (5)	7 (2)			7 (2)	11 (3)	2			13 (3)	1		2	3 (0)	
東洋史学	14 (3)	3 (1)			3 (1)	7	1 (1)			8 (1)			3	1 (1)	
西洋史学	19 (2)	7			7 (0)	7 (1)	2			9 (1)	1		2	1 (1)	
考古学	6 (1)	1			1 (0)	3 (1)				3 (1)			1	2 (0)	
美術史学	20 (10)	8 (7)			8 (7)	8 (2)	1 (1)			9 (3)			2	2 (0)	
(歴史文化学科 計)	82 (21)	26 (10)	0 (0)	0 (0)	26 (10)	36 (7)	6 (2)	0 (0)	0 (0)	42 (9)	2 (0)	1 (0)	10 (2)	13 (2)	1 (0)

(言語文化学科)

専修課程	卒業生総数	進学者				就職者				未就職者				不明者	
		大学院	大学学部	研究生	計	企業	官庁	教育	その他	計	自宅勉強	アルバイト	その他		計
言語学	14 (3)	5			5 (0)	7 (3)	2			9 (3)				0 (0)	
日本語日本文学(国語学)	6 (1)				0 (0)	2 (1)	1			4 (1)				1 (0)	
日本語日本文学(国文学)	22 (4)	3 (2)			3 (2)	14 (2)	1			15 (2)	1		3	4 (0)	
中国語中国文学	1 (1)	1 (1)			1 (1)					0 (0)			1 (1)	1 (1)	
インド語インド文学	2 (1)	1			1 (0)	1 (1)				1 (1)				0 (0)	
英語英米文学	26 (14)	7 (3)			7 (3)	14 (8)	2 (2)			16 (10)	1 (1)		1	1 (1)	2
ドイツ語ドイツ文学	4 (2)	2 (1)			2 (1)	2 (1)				2 (1)				0 (0)	
フランス語フランス文学	12 (4)	3 (1)			3 (1)	6 (2)				6 (2)	1		2	1 (1)	
スラヴ語スラヴ文学	3 (2)	1			1 (0)	1 (1)				1 (1)	1 (1)		1	1 (1)	
南欧諸国文学	1 (1)	1 (1)			1 (1)					0 (0)				0 (0)	
西洋古典学	3 (2)	3 (2)			3 (2)					0 (0)				0 (0)	
現代文芸論	15 (9)	4 (1)			4 (1)	8 (5)				8 (5)			1 (1)	1 (1)	2 (2)
(言語文化学科 計)	109 (44)	31 (11)	0 (0)	0 (0)	31 (11)	55 (24)	6 (2)	1 (0)	0 (0)	62 (26)	4 (2)	0 (0)	8 (3)	12 (5)	4 (2)

(行動文化学科)

専修課程	卒業生総数	進学者				就職者				未就職者				不明者	
		大学院	大学学部	研究生	計	企業	官庁	教育	その他	計	自宅勉強	アルバイト	その他		計
心理学	24 (13)	8 (4)			8 (4)	15 (9)				15 (9)				1 (0)	
社会心理学	21 (6)	1			1 (0)	18 (6)				18 (6)				2 (0)	
社会学	55 (22)	10 (3)			10 (3)	30 (14)	7 (2)			38 (16)	1		2 (2)	3 (2)	4 (1)
(行動文化学科 計)	100 (41)	19 (7)	0 (0)	0 (0)	19 (7)	63 (29)	7 (2)	0 (0)	1 (0)	71 (31)	2 (0)	0 (0)	4 (2)	6 (2)	4 (1)

( )内は、女子で内数

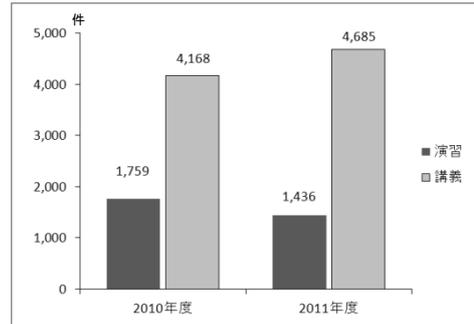


## E 授業改善への取り組み

2009年度より研究科・文学部の取り組みとして、専任および非常勤教員と各研究室に協力していただき、授業改善アンケートの実施を開始した。集計作業は、教育研究情報管理室が行なっている。このうち2010年度・2011年度に実施したアンケートの回答結果（[Q7]は除く）は下記の通りである。

なお、専攻ごと、学科ごとの集計も行なっているが、ここには、研究科・文学部全体の集計結果のみを掲載する。

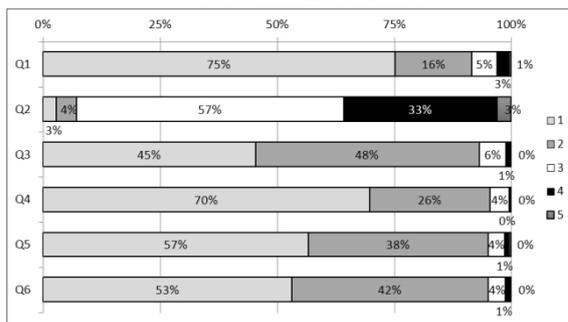
2010-2011年度 アンケート回答総数



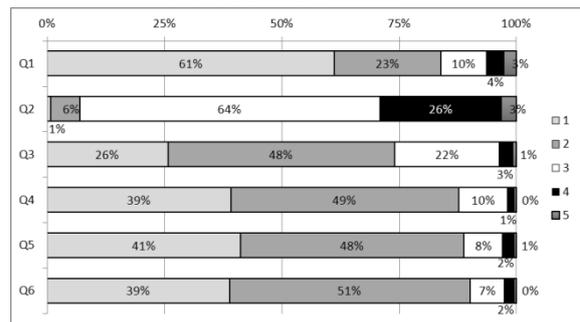
### 授業改善アンケート質問項目

- [Q1] あなたはこの授業にどれくらい出席しましたか？  
 1- 80%以上      2- 79%~60%      3- 59~40%      4- 39%~20%      5- 20%未満
- [Q2] あなたにとって授業の難易度はどうですか？  
 1- 易すぎる      2- やや易しい      3- ちょうどよい      4- やや難しい      5- 難すぎる
- [演習 Q3] 授業中、議論・質問の機会は適切に与えられていると思いますか？  
 1- 非常に適切である      2- 適切である  
 3- どちらでもない      4- あまり適切でない  
 5- まったく適切でない
- [講義 Q3] 教員の講義技術（説明の仕方や板書など）について、どう思いますか？  
 1- 非常に優れている      2- 優れている  
 3- どちらでもない      4- 劣っている  
 5- 非常に劣っている
- [演習 Q4] 授業中の質問に対する先生の対応はどうですか？  
 1- 大変熱心である      2- 概ね熱心である  
 3- 普通である      4- あまり熱心でない  
 5- 不熱心である
- [講義 Q4] 授業はよく準備・計画されていると思いますか？  
 1- とてもよく準備されている      2- よく準備されている  
 3- どちらでもない      4- やや準備不足である  
 5- 準備不足である
- [Q5] 授業を受講して、この授業がテーマとする分野への問題意識や関心は深まりましたか？  
 1- 大いに深まった      2- やや深まった      3- どちらでもない      4- あまり深まらなかった  
 5- まったく深まらなかった
- [Q6] 授業を受講して、新たな知識や知力が身についたと感じますか？  
 1- 非常に感じる      2- やや感じる      3- どちらでもない      4- あまり感じない  
 5- まったく感じない
- [Q7] 授業方法、設備などに関する改善要望や、その他意見、感想があれば下記および裏面に記入して下さい。（自由記述欄）

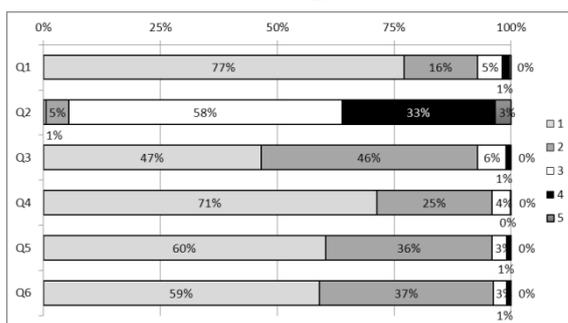
2010年度演習 回答傾向



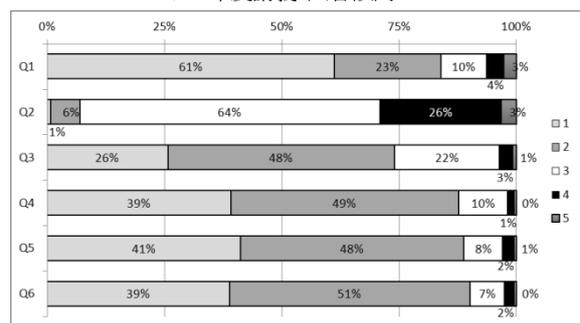
2010年度講義 回答傾向



2011年度演習 回答傾向



2011年度講義 回答傾向



### 3. 国際交流

#### (1) 留学生教育と国際交流活動

##### A 留学生教育

人文社会系研究科には、毎年多数の留学生が正規の学生、もしくは研究生として在籍し、修士、博士の学位を取得するものも少なくない。他の研究科と異なり、本研究科の場合には、高度の日本語の能力と日本事情に通じていることが、学問の前提として必要となる。そこで人文社会系研究科・文学部独自に、日本語教育を実施している。しかし、受講希望者の多様化により、担当者は過重の負担を強いられている。その負担の軽減を図るため、非常勤講師を採用するなどの措置を取ってはいるが、なお十分ではない。

また、これらの教育により、高度の日本語を身につけたとしても、それぞれの学問分野で論文を発表するのに十分な日本語ということになると、これは、また別の次元の問題である。修士論文にせよ、博士論文にせよ、それぞれの分野の日本人学生が、論文の日本語に手を入れているのが実情である。多くの場合、チューター役を任じられた日本人学生が、ボランティアとして献身的に行っている。こうした現状を改善すべく、本研究科においては、2000年度に、「三金会」（東京都立高校の校長 OB 有志の親睦会）会員諸氏のご協力のもと、博士課程に在学する外国人留学生で、博士論文の日本語の添削を必要とするものに対する支援を目的とした「留学生博士論文作成支援ネットワーク」がスタートした。この支援を受けた留学生の中から、博士論文を完成させ、博士号を取得した者も出てきている。また、2006年度より、本部から留学生経費の配分をいただき、修士論文の日本語校閲につき、謝金を支給する制度を実施している。しかし、留学生経費が削減される傾向にあり、制度の運営に支障が出るのではないかと、懸念される。より優秀な留学生を得、また、彼等をサポートする為にはどのような制度が有効であるのか、研究のためには日本語が不可欠である専門分野においては、昨今の“国際化”の波にのまれることなく、今一度、足下を見直す事が必要であると、考える。

教育以外の問題、すなわち生活上の問題はより深刻である。住居事情の悪さ、超低金利による財団系奨学金受給者数や金額の減少が著しい。住居事情の悪さをカバーするため大学に勉学の場所を作ろうと思っても場所がない。こうしたさまざまな問題が、教育の現場に降りかかってくる。種々の方面にわたる、きめ細かな支援策が講じられるように願うものである。本研究科・文学部では「国際交流室」を設置し、留学生のための日本語教育及び相談業務を行っており、今後もその人的・資金的な充実化をはかるよう努力していくものである。

#### 国又は地域別外国人留学生数

各年度 05 月 01 日現在

国名又は地域名	平成 19(2007) 年度	平成 20(2008) 年度	平成 21(2009) 年度	平成 22(2010) 年度	平成 23(2011) 年度
<b>アジア</b>					
インドネシア	1	2		1	1
韓国	65	59	62	70	69
シンガポール	1	1		2	2
スリランカ	1	1	1		
タイ	1	1		1	1
台湾	25	22	15	12	11
中国	36	36	37	50	50
中国(香港)	1	1	1	1	1
マレーシア	2	2	3	1	1
モンゴル	1	1	1	1	1
小計	<b>134</b>	<b>126</b>	<b>120</b>	<b>139</b>	<b>138</b>
<b>中近東</b>					
イラン			1	1	
イスラエル	1	1	1	1	1
トルコ	1	1	1		
小計	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>3</b>	<b>2</b>	<b>1</b>

<b>アフリカ</b>					
エジプト	1	1	1		
小計	1	1	1		
<b>オセアニア</b>					
オーストラリア	1	1	1	1	
ニュージーランド	1	1	1		
小計	2	2	2	1	0
<b>北米</b>					
アメリカ合衆国	7	6	8	10	6
カナダ	2	1			
小計	9	7	8	10	6
<b>中南米</b>					
アルゼンチン	1	1			
パラグアイ			1	1	1
ブラジル	1			1	1
ベネズエラ				1	1
小計	2	1	1	3	3
<b>ヨーロッパ</b>					
イギリス	2	1	1		
イギリス(香港)				1	1
イタリア	3	4	2	6	5
ウクライナ	1	1	2	1	1
ウズベキスタン	1	1			
オーストリア			1		
オランダ				1	1
キルギス				1	
スイス	1	1	1	1	1
スウェーデン	1				1
スペイン	1				
スロバキア	1				
セルビア	1	1	1	1	1
チェコ					1
ドイツ	2	1	2		
ハンガリー	3	1	1	1	1
フィンランド				1	2
フランス	2	3	3	4	1
ブルガリア	1	1			
ポーランド	3	4	1	3	2
ルーマニア	2				
ロシア	1		3	2	
小計	26	19	19	23	18
<b>合計</b>	<b>176</b>	<b>158</b>	<b>154</b>	<b>178</b>	<b>166</b>

## B 留学生派遣

大学院人文社会系研究科・文学部は留学生を受け入れるばかりではなく、数多くの学生を海外に派遣してきた。その派遣先は、アジア、アメリカ、アフリカ、オーストラリア、ヨーロッパの国々のさまざまな大学である。

### ●海外へ留学・修学した学部生

	海外留学・修学者の合計	アメリカ	イギリス	カナダ	その他
平成20 (2008) 年度	海外修学 7名	2名	2名		ニュージーランド 1名 フランス 1名 エジプト 1名
	留学 なし				
平成21 (2009) 年度	海外修学 7名	2名		2名	スイス 1名 メキシコ 1名 中国 1名
	留学 なし				
平成22 (2010) 年度	海外修学 5名	3名		1名	スペイン 1名
	留学 1名		1名		
平成23 (2011) 年度	海外修学 9名	2名	2名	2名	エジプト 2名 スペイン 1名
	留学 2名		2名		

### ●海外へ留学・修学した大学院生

年度	学生身分	異動区分名	計	内訳														
				アメリカ	イギリス	ドイツ	フランス	スイス	オーストリア	イタリア	ロシア	中国	台湾	韓国	ベトナム	インド	イラン	その他
平成20 (2008) 年度	修士課程	休学(海外修学)	3														モロッコ 1名 カナダ 1名 アルゼンチン 1名	
		留学	0															
	研究指導委託	0																
	博士課程	休学(海外修学)	61	13	5	5	14	1		1	12		1	1	2	2	ミャンマー 1名 シリア 1名 スウェーデン 1名 クロアチア 1名	
留学		5	1	1	1	1		1										
研究指導委託		17	1		2	9		1	1	2	1							
平成21 (2009) 年度	修士課程	休学(海外修学)	1		1													
		留学	0															
		研究指導委託	0															
	博士課程	休学(海外修学)	44	5	3	5	15	1		1	7				2	2	シンガポール 1名 トルコ 1名 ベルギー 1名	
留学		4	2								2							
研究指導委託		8	2		1	5												
平成22 (2010) 年度	修士課程	休学(海外修学)	2	1									1					
		留学	0															
		研究指導委託	0															
	博士課程	休学(海外修学)	54	8	4	9	16	1	2	2	1	3		2	1	1	トルコ 1名 フィンランド 1名 アイルランド 1名 ベルギー 1名	
留学		9	1		1	2	2		1			2						
研究指導委託		8		1	1	3					2	1						
平成23 (2011) 年度	修士課程	休学(海外修学)	0															
		留学	1					1										
		研究指導委託	0															
	博士課程	休学(海外修学)	50	11	3	7	12	1	3	2	2	5			1		タイ 1名 イスラエル 1名 フィンランド 1名	
留学		7		1	1	4					1							
研究指導委託	11				7	2										中国(香港) 1名		

### C 次世代人文社会学育成プログラム

大学院人文社会系研究科・文学部では、2009年度から「次世代人文社会学育成プログラム」を開始した。これは日本学術振興会の「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」に採択されたことを受け、向こう3年間におよそ98名の学部学生、大学院生、若手研究者を世界各地の大学や研究機関に派遣しようというプログラムとなっている。

選考を経て採択された応募者には、渡航費と滞在費が支給される。

これまで大学院人文社会系研究科・文学部が海外に派遣することのできる学生はきわめて限られていたが、これによって東アジア、ヨーロッパ、北米地域への留学や研修の可能性が大きく開かれることとなった。

次世代人文社会学育成プログラム 国・地域別派遣者数

派遣先 (国・地域名)	平成 21(2009)年度					平成 22(2010)年度					平成 23(2011)年度				
	助教	PD	博士	修士	学部	助教	PD	博士	修士	学部	助教	PD	博士	修士	学部
中国													1		
台湾			1									1			
韓国						1	1	1	2	1		1	1		
イラン									1						1
アジア地域			1			1	1	1	3	1		2	2		1
ロシア										1			2	2	1
ロシア&NIS地域										1			2	2	1
ポーランド											1				
ハンガリー											1				
セルビア													1		
オーストリア							1								
ドイツ							1			1		7	1		2
フランス			2				3	1	4	1		2	3	2	
イタリア							1	1					3		1
イギリス				1											
ヨーロッパ地域			2	1			6	2	4	2	2	9	8	2	3
アメリカ				1			2			1		3			
カナダ														1	
北米地域				1			2			1		3		1	
アルゼンチン									1						1
ペルー															1
コスタリカ															1
中南米地域									1						3
ニューカレドニア												1			
オセアニア地域												1			
合計			3	2		1	9	3	8	5	2	15	12	5	8
	5					26					42				

#### D 外国人研究員受け入れ

本学は、多くの海外諸機関と学術協定を結んでおり、研究者の交流も活発に行なわれている。  
毎年、海外から研究者を文学部内規によって文学部外国人研究員として受け入れている。

●外国人研究員（国籍別人数）

(※ 文学部内規による)

国または地域名	平成 19(2007) 年度	平成 20(2008) 年度	平成 21(2009) 年度	平成 22(2010) 年度	平成 23(2011) 年度
韓国	14	12	15	11	8
台湾	2	2	2	2	
中国	10	13	12	7	6
ベトナム				1	
マレーシア	1	1			
オーストラリア			1	1	
アメリカ合衆国	3	8	10	8	2
カナダ	3	3			
イギリス	1	1		1	1
イスラエル				1	
イタリア	1	2	5	4	1
ウズベキスタン				1	
スイス		1	1		
ドイツ	1	1	2	2	4
ハンガリー					1
フランス	1	2	1		
ブルガリア		1		1	1
ポーランド	1		1	1	
ルーマニア			1		
ロシア	1	1			
<b>計</b>	<b>39</b>	<b>48</b>	<b>53</b>	<b>41</b>	<b>24</b>

## (2) 国際交流協定

## A 学術・学生関係

2012年3月1日現在

国名	#	大学名	署名者及び署名年月日		協定の内容	
			本学	相手方の大学	専門分野	交流の対象
韓国	1	ソウル大学校	総長 1990/8/17 1995/12/4 2000/12/21 2005/10/29	総長 1990/8/17 1995/12/14 2001/1/22 2005/10/29	相互の必要とする分野	1. 教官、学生 2. 学術情報及び資料の交換 3. 共同研究、シンポジウム及び講演の実施
	2	高麗大学校	総長 2005/10/28	総長 2005/10/28		
中国	3	北京大学	総長 2003/12/17 2009/7/21	学長 2003/11/7 2009/7/21	学術研究及び教育上関心を持つ分野	1. 教官及び研究者 2. 学生 3. 共同研究の実施 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
インド	4	デリー大学	総長、人文科学研究科 委員会委員長 1980/3/25 1983/3/25 1986/4/22 1992/7/8	副総長、事務局長 1980/5/1 1983/5/2 1986/5/1 1992/7/20	(派遣)インド哲学、仏教学、サンスクリット、インド史。 (受入)日本仏教・中国仏教・インド仏教の思想と 歴史、インド哲学、サンスクリット、弁論学、サンスクリ ット、チベット研究、日本研究	1. 大学院学生(協定書で学生の在籍研究科・ 学科を指定)
イラン	5	テヘラン大学	総長 1997/3/7 2002/8/12 2007/5/25	総長 1997/4/23 2002/8/27 2007/6/12	相互に関心を持つ分野	1. 教官、研究者、学部学生・大学院生 2. 情報、学術資料の交換 3. 共同研究、シンポジウム、講義等
エジプト	6	カイロ大学	総長 1998/7/3 2005/6/27	学長 1998/7/3 2005/7/11	それぞれが学術研究及び 教育上関心を持つ分野	1. 教官、研究者、学生 2. 共同研究、講義、講演、シンポジウム 3. 学術情報及び資料の交換
イタリア	7	ローマ大学「ラ・サピエンツァ」	総長 1999/1/22 2004/5/31 2009/6/22	総長 1999/4/30 2004/6/17 2009/7/7	共通の関心を有する分野	1. 研究者 2. 学術情報及び学術刊行物の交換 3. 会議・セミナーの開催
	8	パドヴァ大学	総長 1993/1/7 1995/4/14 2003/3/14 2008/3/7	学長 1993/1/7 1998/4/24 2003/3/19 2003/4/14	共通の興味と関心の存在する分野	1. 教育及び研究者、学生 2. 学術情報、刊行物の交換 3. セミナーやシンポジウムの共同開催
	9	パレルモ大学	総長 1998/7/24 2003/11/26	学長 1998/7/30 2003/10/6	共通の関心を有する分野	1. 教官、研究者、大学院生 2. 学術情報及び学術刊行物の交換 3. セミナーやシンポジウムの共同開催
	10	ピサ高等師範学校	総長 2002/5/30 2007/4/4	総長 2002/6/10 2007/4/19	それぞれが関心を持つ分野	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 共同研究 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
ドイツ	11	ホッフム・ルール大学	総長 1969/5/23	総長 1969/7/14	日本学、シナ学、ドイツ文学・語学・ 哲学、歴史学、美術史学、人文地理学	1. 教授・助教授・専任講師及び研究助手 2. 稀少な文献または資料の印刷物
フランス	12	エコール・ノルマル・スーペリエール	総長、文学部長 1993/2/23 1998/4/28 2003/3/24 2008/2/8	校長、副校長 1993/3/3 1998/5/7 2003/3/31 2008/3/4	それぞれが関心を持つ分野	1. 大学院生、教官・研究者 2. 学術情報及び書籍・資料の交換
オランダ	13	ワルシャワ大学	総長 1978/4/1	総長 1978/5/10	日本学、スラヴ学	1. 研究者、研究留学生 2. 学術資料等の交換
スイス	14	ジュネーヴ大学	総長 1997/7/2 2002/7/2 2007/7/6	学長 1997/7/2 2002/7/22 2007/7/26	両大学が関心を持つ分野	1. 学生、教官、研究者 2. 刊行物、学術情報の交換 3. 学会、セミナー、講演会、共同研究
ロシア	15	ロモノソフ記念モスクワ国立大学	総長 1998/4/7 2003/5/13	総長 1998/4/7 2003/6/24	学術研究上共通の関心を持つ分野	1. 教官、研究者、大学院生・学部学生 2. 共同研究、講義及びシンポジウム 3. 情報及び学術刊行物の交換

B 部局間協定

2012年3月1日現在

国名	#	大学名	署名者及び署名年月日		協定の内容	
			本学	相手方の大学	専門分野	交流の対象
韓国	1	ソウル大学校人文大学	人文社会系研究科長 2005/7/11	人文大学長 2005/8/10	人文社会系の各分野	学生の交流
	2	釜山大学校人文大学	人文社会系研究科長 2005/1/13	人文大学長 2005/2/17	人文社会系分野で双方が必要と認める分野	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 学術情報及び資料の交換
	3	高麗大学校文科大学	人文社会系研究科長 2005/10/31	文科大学長 2005/10/28	人文社会系の各分野	学生の交流
	4	成均館大学校儒学・東洋学部	人文社会系研究科長 2006/11/2	文化学部長 2006/11/11	東アジアの歴史・思想に関する分野	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 共同研究の実施 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
中国	5	北京大学歴史学系	総合文化研究科長 2006/7/21 2008/9/8 人文社会系研究科長 2006/8/3 2008/9/16	歴史学系主任 2006/8/21	歴史学	学生の交流
	6	山東大学文史哲研究院・韓国研究中心	人文社会系研究科長 2003/7/17 2008/11/25	研究院長 2003/8/10 2008/11/25 研究中心主任 2003/9/9 2008/11/25	相互に関心のある専門分野	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 共同研究の実施 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
	7	香港中文大学歴史学院	2011/2/1 人文社会系研究科長	2011/1/27 文科大学長	人文学、社会学	1. 教員及び研究者 2. 学生
モロッコ	8	アブデルマレク・エッサデーニ大学文学部	総長、人文社会系研究科長 1998/3/24 人文社会系研究科長 2003/7/2 2008/5/23	総長、文学部長 1998/3/24 文学部長 2003/7/8 2008/6/10	共通の関心を有する分野	1. 研究者 2. 学生 3. 研究プロジェクトの共同推進 4. 学術情報及び学術刊物の交換 5. 会議及びシンポジウムの開催
イタリア	9	ローマ大学「ラ・サピエンツァ」東洋研究学部	人文社会系研究科長 2009/10/23	東洋研究学部長 2009/11/5	共通の関心を有する分野	1. 教員、研究者 2. 共同研究の実施 3. 講義、講演、シンポジウムの実施 4. 学術情報及び資料の交換
フランス	10	エコール・ノルマル・スーペリエール/文学・人文科学リヨン校	人文社会系研究科長 1999/10/19 2002/9/25 2008/1/22	校長 1999/10/13 2002/10/15 2008/1/30	特定していない	1. 学生、教員、研究者 2. 学術情報及び書籍・資料の交換 3. 共同研究計画の推進
	11	フランス極東学院	人文社会系研究科長 2001/3/13 2006/3/13	学院長 2001/3/13 2006/3/13	それぞれが学術研究及び教育上関心を持つ分野	1. 教員、研究者 2. 共同研究の実施 3. 講義、講演、シンポジウムの実施 4. 学術情報及び資料の交換
イギリス	12	マンチェスター大学人文学部	人文社会系研究科長 2009/8/24	人文学部長 2009/9/7	人文学、社会学	1. 教員及び研究者 2. 学生
アフリカ合衆国	13	ミンガン大学社会科学総合研究所・ミンガン大学総合国際研究所	人文社会系研究科長 2001/12/12 社会科学研究所長 2001/12/12 総長特別補佐 2001/12/12 2007/3/27(26)	Director of the Institute for Social Research 2001/12/18 Director of the International Institute 2001/12/17 Interim Provost and Executive Vice President for Academic Affairs 2001/12/17 2007/4/4	共通の関心を有する分野	1. 教員及び研究者(大学院学生を含む) 2. 共同研究、セミナー、シンポジウムの共同開催 3. 学術情報及び学術刊物の交換

### (3) 国際研究協力

#### A 海外渡航

平成22(2010)年度		平成23(2011)年度	
全体	221人	全体	217人
(外国出張	190人、海外研修 31人)	(外国出張	197人、海外研修 20人)
教授	127人	教授	139人
准教授	52人	准教授	50人
助教	23人	助教	20人
講師	4人	講師	0人
外国人教師	7人	外国人教師	4人
外国人研究員	8人	外国人研究員	4人

#### B 外国人客員教員・研究員（客員）

〈外国人教員〉

フランス語フランス文学専修課程	シモン-オイカワ、マリアンヌ (2006.10.16～2014.10.15)
社会心理学専修課程	スティール、ジル (2007. 4. 1～2011. 3.31)
中国語中国文学専修課程	常 森 (2009.10. 1～2011. 9.30)
南欧語南欧文学専修課程	アマート、ロレンツォ (2011. 4.18～2013. 3.31)
中国思想文化学専修課程	廖 肇亨 (2011.10. 1～2013. 9.30)
哲学専修課程	ディーツ、リチャード (2011.10. 1～2016. 9.30)

〈外国人研究員（客員）〉

附属次世代人文学開発センター	ミュラー、アルバート チャールズ (2008.10.1～2013.9.30)
文化資源学専攻	カーペンター、ジョン トーマス (2009.10. 1～2011. 3.31)
文化資源学専攻	コールドレイク、ウィリアム、ハワード (2011.10.1～2013.9.30)
韓国朝鮮文化研究専攻	権 斗煥 (2010.4.1～2011.2.28)

#### C 外国人教師

〔（ ）内は国籍〕

専修課程	平成18 (2006) 年度	平成19 (2007) 年度	平成20 (2008) 年度	平成21 (2009) 年度	平成22 (2010) 年度	平成23 (2011) 年度
英語英米文学	1名 (英国)					
ドイツ語ドイツ文学	1名 (独)					
フランス語フランス文学	1名 (仏)					
南欧語南欧文学	1名 (伊)					

#### 4. 研究費の受け入れ

##### (1) 科学研究費補助金

平成 22(2010)年度

研究種目	課題番号	研究代表者	平成22年度 直接経費	平成22年度 間接経費	研究課題名
特定領域研究	17083003	小島 毅	1,500,000	0	東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成・寧波を焦点とする学際的創生：総括班
基盤研究(S)	18102002	吉田 伸之	14,600,000	4,380,000	16-19世紀、伝統都市の分節的な社会—空間構造に関する比較類型論的研究
基盤研究(S)	20223004	白波瀬 佐和子	55,000,000	16,500,000	少子高齢社会の階層格差の解明と公共性の構築に関する総合的実証研究
基盤研究(S)	21221010	水島 司	30,200,000	9,060,000	インド農村の長期変動に関する研究
基盤研究(S)	21223001	池田 謙一	24,100,000	7,230,000	国際比較のための価値・信頼・政治参加・民主主義指標の日本データ取得とその解析研究
基盤研究(A)	19202002	斉藤 明	10,100,000	3,030,000	仏教用語の『日英基準訳語集』構築に向けての総合的研究
基盤研究(A)	19202005	西村 清和	2,190,000	7,300,000	「生活場所(ビオトープ)」の美学—自然・環境・美的文化
基盤研究(A)	21242024	深沢 克己	8,400,000	2,520,000	ヨーロッパ・地中海世界における異宗教・異宗派間の相和と融和をめぐる比較史研究
基盤研究(A)	21242026	佐藤 宏之	7,200,000	2,160,000	黒曜石の流通と消費からみた環日本海北部地域における更新世人類社会の形成と変容
基盤研究(A)	22242002	下田 正弘	7,500,000	2,250,000	国際連携による仏教学術知識基盤の形成 — 次世代人文学のモデル構築
基盤研究(B)	19320045	平石 貴樹	3,800,000	1,140,000	18~19世紀の英米文化交流の実証的研究
基盤研究(B)	19320057	木村 英樹	3,700,000	1,110,000	中国語の構文及び文法範疇形成の歴史の変容と汎時的普遍性—中国語歴史文法の再構築—
基盤研究(B)	19320124	熊木 俊朗	2,900,000	870,000	北東アジア史からみた中世アイヌ文化形成過程の考古学的研究
基盤研究(B)	19320138	本田 洋	1,700,000	510,000	韓国社会のポスト産業化に関する人類学的研究
基盤研究(B)	19401030	大貫 静夫	3,100,000	930,000	東北アジアにおける定着的食料採集社会の形成および変容過程の研究
基盤研究(B)	20320002	高山 守	4,500,000	1,350,000	哲学と芸術と国家
基盤研究(B)	20320021	小田部 胤久	2,000,000	600,000	「ヨーロッパ—アジア」の美学的理念史
基盤研究(B)	20320022	秋山 聰	3,800,000	1,140,000	像(イメージ)の生動化についての比較美術史的研究
基盤研究(B)	20320023	小佐野 重利	3,100,000	930,000	国家もしくは都市の顕彰装置としての自画像コレクションの歴史文化史的研究
基盤研究(B)	20320029	小林 真理	3,100,000	930,000	行政構造改革が戦後日本の芸術文化政策の成果に与えた影響に関する研究
基盤研究(B)	20320052	沼野 充義	2,500,000	750,000	グローバル化時代における文化的アイデンティティと新たな世界文学カノンの形成
基盤研究(B)	20330131	山口 勲	1,900,000	570,000	自尊心の意味、効用、および規定因に関する比較文化的研究—合理的選択の視点から
基盤研究(B)	21300148	立花 政夫	4,200,000	1,260,000	視覚系における初期情報処理機構の研究
基盤研究(B)	21320005	関根 清三	3,100,000	930,000	哲学と宗教の対話—ヘブライズム・キリスト教とヘレニズムの交錯
基盤研究(B)	21320066	榊原 哲也	5,000,000	1,500,000	ケアの現象学の基礎と展開
基盤研究(B)	21320065	藤井 省三	1,700,000	510,000	東アジアにおける魯迅「阿Q」像の系譜
基盤研究(B)	21320119	大津 透	3,400,000	1,020,000	日唐宋律令法の比較研究と『新唐令拾遺』の編纂
基盤研究(B)	21330167	佐藤 隆夫	4,400,000	1,320,000	視覚運動情報と身体運動情報の統合過程
基盤研究(B)	22320003	一ノ瀬 正樹	3,200,000	960,000	物質・生命・人格をめぐる哲学と自然科学の交差に関する理論的および実践的研究
基盤研究(B)	22320016	池澤 優	6,400,000	1,920,000	宗教概念ならびに宗教研究の普遍性と地域性の相関・相克に関する総合的研究
基盤研究(B)	22320118	村井 章介	3,800,000	1,140,000	前近代東アジアの外交と異文化接触—日明関係を軸とした比較史的考察—
基盤研究(B)	22320138	六反田 豊	3,200,000	960,000	朝鮮半島の「水環境」をめぐる社会・経済・文化の歴史的諸相—漢江を中心として
基盤研究(B)	22330145	佐藤 健二	3,500,000	1,050,000	社会調査史の多角的な構築に関する総合的研究
基盤研究(B)	22330166	武川 正吾	4,600,000	1,380,000	東アジアの地域統合と福祉レジームに関するポスト・オリエンタリズム的な国際比較研究
基盤研究(B)	22330181	唐沢 かおり	2,800,000	840,000	組織の責任判断に関する総合的研究
基盤研究(B)	22330199	横澤 一彦	4,600,000	1,380,000	情報統合としての共感覚的認知に関する認知心理学的研究
基盤研究(B)	22320142	佐川 英治	3,800,000	1,140,000	最新の考古調査および札制研究の成果を用いた中国古代都城史の新研究
基盤研究(C)	22320142	読楽 博巳	1,500,000	450,000	人物造形品の集成と分析にもとづく弥生時代の儀礼と社会組織に対する基礎的研究
基盤研究(C)	19510268	姫岡 とし子	700,000	210,000	ジェンダーで読む労働運動—近代化過程のドイツを中心に
基盤研究(C)	19520135	安藤 宏	800,000	240,000	近代文学関連雑誌の総合的研究
基盤研究(C)	19520293	土田 龍太郎	900,000	270,000	サンسكريット大叙事詩マハーバーラタのテキスト形成史の解明
基盤研究(C)	20520044	丸井 浩	600,000	180,000	現存最古のニヤヤ哲学綱要書『ニヤヤ・カリカー』の校訂テキスト作成と翻訳
基盤研究(C)	20520112	渡辺 裕	700,000	210,000	土地の記憶の生成・変容過程に関わる芸術の機能の研究
基盤研究(C)	20520278	Marienne Simon-Oikawa	1,300,000	390,000	19、20世紀のフランスにおける文学と絵画の関係についての総合的研究
基盤研究(C)	20520565	佐藤 信	600,000	180,000	古代日本列島における漢字文化受容の地域的特性の研究
基盤研究(C)	20520636	橋場 弦	600,000	180,000	古代ギリシアにおける紛争解決と公共圏の比較文化史的研究
基盤研究(C)	20529002	高橋 晃一	600,000	180,000	『瑜伽師地論』とアビダルマ仏教の思想的関連について
基盤研究(C)	20529003	藤崎 衛	500,000	150,000	中世ローマ教皇庁のユダヤ人認識に関する研究
基盤研究(C)	20530658	瀬山 淳一郎	700,000	210,000	不気味の谷の実験心理学的研究
基盤研究(C)	21520076	竹下 政孝	900,000	270,000	現代中東における近代以前イスラーム思想の権威的テキストの受容と影響
基盤研究(C)	21520181	渡部 泰明	500,000	150,000	中世和歌東西交流史の研究
基盤研究(C)	21520314	野崎 敏	900,000	270,000	フランス文学と映画の相関関係についての総合的研究
基盤研究(C)	21520428	重藤 実	700,000	210,000	ドイツ語史における開始相表現の変化
基盤研究(C)	21520468	肥川 周二	600,000	180,000	平安・鎌倉時代の真言・陀羅尼資料に見える連音変化現象の研究
基盤研究(C)	21520767	今村 啓爾	1,000,000	300,000	新資料の増進に対応する初期銅鼓研究の全面的再検討
基盤研究(C)	21520768	早乙女 雅博	600,000	180,000	関野貞による朝鮮古蹟調査の再検討
基盤研究(C)	22520170	多田 一臣	700,000	210,000	『万葉集』の語彙の表現論的研究
基盤研究(C)	22520171	長島 弘明	1,400,000	420,000	和学系文人の和文作品についての研究
基盤研究(C)	22520231	阿部 公彦	700,000	210,000	西洋文化圏における「凝視」と「注意」の文化史的意義の研究
基盤研究(C)	22520298	逸身 喜一郎	1,000,000	300,000	ギリシャ悲劇の歌の、韻律にもとづく類型学
基盤研究(C)	22520299	塚本 昌則	1,200,000	360,000	メランコリーと幼年時代—フランス近代文学の根源を求めて
基盤研究(C)	22520351	高橋 孝信	900,000	270,000	タミル古代の詞集『十の長詩』の批判的研究
基盤研究(C)	22520389	Albert Charles Muller	1,400,000	420,000	東アジア漢英辞典の開発とウェブサービス作製
基盤研究(C)	22520457	月本 雅幸	1,400,000	420,000	平安時代の真言宗系訓点資料についての研究
基盤研究(C)	22520492	渡邊 明	300,000	90,000	統語演算における数の素性の役割
基盤研究(C)	22530512	盛山 和夫	1,300,000	390,000	等依存性原理を組み込んだ公正な分配の規範的理論の構築に関する社会学的研究
基盤研究(C)	22530532	赤川 学	600,000	180,000	人口減少に対応する社会制度構想の総合的研究
基盤研究(C)	22520395	小林 正人	700,000	210,000	クルフ語・マルト語の比較文法と比較語彙集の作成
挑戦萌芽研究	21653060	唐沢 かおり	1,000,000	0	問題解決場面における社会心理学的方法論拡張の可能性：個人焦点の方法論を越えて
若手研究(B)	21720044	大田 峰夫	500,000	150,000	二重帝国における音楽のナショナルリズムと民族誌研究—ハンガリーの事例を中心に
若手研究(B)	21720253	五十嵐 大介	1,100,000	330,000	中世アラブにおけるイスラーム寄進制度(ワクフ)の社会的機能
若手研究(B)	21720254	濱本 真実	1,100,000	330,000	タタール人ネットワークと中央ユーラシアの近代化
若手研究(B)	22700255	永崎 研宜	1,700,000	510,000	東洋古典文学のための実体験可能な研究情報共有基盤の構築に関する研究
若手研究(B)	22720125	畑 浩一郎	1,200,000	360,000	19世紀フランス文学における異郷
若手研究(B)	22720150	梅谷 博之	600,000	180,000	モンゴル語の派生と複合の研究
若手研究(B)	22720281	佐藤 昇	1,200,000	360,000	古代東地中海世界国際関係におけるエリート間の紐帯に関する研究
若手研究(B)	22730576	浅野 倫子	1,000,000	300,000	読みにおける非言語的視覚処理の研究
研究活動スタート支援	22820011	大愛 崇晴	570,000	171,000	ロンドン王立協会の初期活動における音楽理論的研究
研究活動スタート支援	22820012	原田 敦史	1,210,000	363,000	軍記物語の生成と流動に関する総合的研究
研究活動スタート支援	22820014	兼松 亨平	810,000	243,000	後期ノルマン時代ロシアの文化記号論における表象の「リアリティ」論とその社会的背景
研究活動スタート支援	22820017	佐々木 紳	1,070,000	321,000	近代オスマン帝国におけるジャーナリズムの誕生と公共空間の形成

平成 23(2011)年度

研究種目	課題番号	研究代表者	平成23年度 直接経費	平成23年度 間接経費	研究課題名
新学術領域研究	23119707	横澤 一彦	2,500,000	750,000	視聴覚相互作用に基づく顔定位特性に関する認知心理学的研究
基盤研究(S)	20223004	白波瀬 佐和子	24,600,000	7,380,000	少子高齢社会の階層格差の解明と公共性の構築に関する総合的実証研究
基盤研究(S)	21221010	水島 司	23,200,000	6,960,000	インド農村の長期変動に関する研究
基盤研究(S)	21223001	池田 謙一	22,700,000	6,810,000	国際比較のための価値・信頼・政治参加・民主主義指標の日本データ取得とその解析研究
基盤研究(S)	23222001	斉藤 明	21,600,000	6,480,000	仏教用語の現代基準訳語集および定義的用例集(ハワードコーシャ)の構築
基盤研究(A)	21242024	深沢 克己	8,400,000	2,520,000	ヨーロッパ・地中海世界における異宗教・異宗派間の相剋と融和をめぐる比較史研究
基盤研究(A)	21242026	佐藤 宏之	7,100,000	2,130,000	黒曜石の流通と消費からみた環日本海北部地域における更新世人類社会の形成と変容
基盤研究(A)	22242002	下田 正弘	7,100,000	2,130,000	国際連携による仏教学術知識基盤の形成 — 次世代人文学のモデル構築
基盤研究(A)	23242001	清水 哲郎	7,400,000	2,220,000	ケア現場の意思決定プロセスを支援する臨床倫理検討システムの展開と有効性の検証
基盤研究(A)	23242004	丸井 浩	9,700,000	2,910,000	「インド哲学諸派における<存在>をめぐる議論の解明」
基盤研究(A)	23251014	大貫 静夫	8,400,000	2,520,000	環日本海北回廊の考古学的研究
基盤研究(B)	20320021	小田部 胤久	2,000,000	600,000	「ヨーロッパ-アジア」の美学的理念史
基盤研究(B)	20320029	小林 真理	2,800,000	840,000	行政構造改革が戦後日本の芸術文化政策の成果に与えた影響に関する研究
基盤研究(B)	20320052	沼野 充義	2,700,000	810,000	グローバル化時代における文化的アイデンティティと新たな世界文学カノンの形成
基盤研究(B)	20330131	山口 勲	1,900,000	570,000	自尊心の意味、効用、および規定因に関する比較文化的研究—合理的選択の視点から
基盤研究(B)	21300148	立花 政夫	4,200,000	1,260,000	社会学における初期情報処理機構の研究
基盤研究(B)	21320005	関根 清三	3,100,000	930,000	哲学と宗教の対話——ヘブライズム・キリスト教とヘレニズムの交錯
基盤研究(B)	21320006	榎原 哲也	5,000,000	1,500,000	ケアの現象学の基礎と展開
基盤研究(B)	21320065	藤井 省三	1,900,000	570,000	東アジアにおける鲁迅「阿Q」像の系譜
基盤研究(B)	21320119	大津 透	4,200,000	1,260,000	日唐宋律令法の比較研究と『新唐令拾遺』の編纂
基盤研究(B)	21330167	佐藤 隆夫	3,600,000	1,080,000	視覚運動情報と身体運動情報の統合過程
基盤研究(B)	22320003	一ノ瀬 正樹	2,600,000	780,000	物質・生命・人格をめぐる哲学と自然科学の交差に関する理論的および実践的研究
基盤研究(B)	22320016	池澤 優	4,300,000	1,290,000	宗教概念ならびに宗教研究の普遍性と地域性の相関・相克に関する総合的研究
基盤研究(B)	22320118	村井 章介	3,800,000	1,140,000	前近代東アジアの外交と異文化接触—日明関係を軸とした比較史的考察—
基盤研究(B)	22320138	六反田 豊	2,500,000	750,000	朝鮮半島の「水環境」をめぐる社会・経済・文化の歴史の諸相—漢江を中心として
基盤研究(B)	22320142	佐川 英治	3,300,000	990,000	最新の考古調査および礼制研究の成果を用いた中国古代都城史の新研究
基盤研究(B)	22330145	佐藤 健二	2,600,000	780,000	社会調査史の多次元的な構築に関する総合研究
基盤研究(B)	22330166	武川 正吾	4,100,000	1,230,000	東アジアの地域統合と福祉レジームに関するポスト・オリエンタリズム的な国際比較研究
基盤研究(B)	22330181	唐沢 かおり	4,200,000	1,260,000	組織の責任判断に関する統合的研究
基盤研究(B)	22330199	横澤 一彦	4,800,000	1,440,000	情報統合としての共感覚的認知に関する認知心理学的研究
基盤研究(B)	23320008	横手 裕	3,200,000	960,000	宮内庁書陵部所蔵道藏を中心とする明版道藏の研究
基盤研究(B)	23320029	小佐野 重利	3,800,000	1,140,000	西歐17世紀以降の王侯の絵画コレクションの形成における複製絵画の影響
基盤研究(B)	23320030	秋山 聡	5,700,000	1,710,000	美術と宝物の相関性についての比較美術史的研究
基盤研究(B)	23320060	高橋 和久	3,700,000	1,110,000	英文学教育の理念・目的および方法に関する体系的研究
基盤研究(B)	23320066	中地 義和	2,900,000	870,000	フランス近代作家の歴史意識
基盤研究(B)	23320157	近藤 和彦	5,800,000	1,740,000	近現代ヨーロッパにおける文化衝突と自己認識—記憶・記録・史料—
基盤研究(B)	23320166	熊木 俊朗	3,500,000	1,050,000	擦文文化期における環オホーツク海地域の交流と社会変動
基盤研究(B)	23320190	本田 洋	2,700,000	810,000	韓国社会の生き方に関する人類学的研究:グローバル化する競争社会における折衝と離脱
基盤研究(B)	22320065	大宮 勤一郎	3,300,000	990,000	ヒューマン・プロジェクト:人間学の文化史的視点からの再構築
基盤研究(B)	23320061	大橋 洋一	2,800,000	840,000	トランスアトランティックな視座からの「アメリカ文学」概念の成立と変容
基盤研究(B)	23320082	木下 克也	3,800,000	1,140,000	中国語文法史の歴史的展開——構文と文法範疇の相関的変遷の解明
基盤研究(B)	23330003	葛西 康徳	2,400,000	720,000	ギリシア・ローマ民事訴訟再検討—裁判手続と法定弁論—
基盤研究(C)	20520112	渡辺 裕	700,000	210,000	土地の記憶の生成・変容過程に関わる芸術の機能的研究
基盤研究(C)	21520076	竹下 政孝	600,000	180,000	現代中東における近代以前イスラム思想の権威的テキストの受容と影響
基盤研究(C)	21520181	渡部 泰明	500,000	150,000	中世和歌東西交流史の研究
基盤研究(C)	21520314	野崎 敏	1,300,000	390,000	フランス文学と映画の相関関係についての総合的研究
基盤研究(C)	21520428	藤森 実	500,000	150,000	ドイツ語史における開始相表現の変化
基盤研究(C)	21520468	肥爪 周二	600,000	180,000	平安・鎌倉時代の真言・陀羅尼資料に見える連音変化現象の研究
基盤研究(C)	21520767	今村 啓爾	1,000,000	300,000	新資料の激増に対応する初期銅鼓研究の全面的再検討
基盤研究(C)	21520768	早乙女 雅博	700,000	210,000	関野貞による朝鮮古蹟調査の再検討
基盤研究(C)	22520170	多田 一臣	500,000	150,000	『万葉集』の語彙の表現論的研究
基盤研究(C)	22520171	長島 弘明	900,000	270,000	和学系文人の和文作品についての研究
基盤研究(C)	22520231	阿部 公彦	600,000	180,000	西洋文化圏における「凝視」と「注意」の文化史的意義の研究
基盤研究(C)	22520298	逸身 喜一郎	700,000	210,000	ギリシャ悲劇の歌の、韻律にもとづく類型学
基盤研究(C)	22520299	塚本 昌則	900,000	270,000	メランコリーと幼年時代——フランス近代文学の根源を求めて
基盤研究(C)	22520351	高橋 孝信	700,000	210,000	タミル古代の詞華集「十の長詩」の批判的研究
基盤研究(C)	22520389	Albert Charles Muller	700,000	210,000	東アジア漢英辞典の開発とウェブサービス作製
基盤研究(C)	22520457	月本 雅幸	900,000	270,000	平安時代の真言宗系訓点資料についての研究
基盤研究(C)	22520492	渡邊 明	400,000	120,000	統語演算における数の素性の役割
基盤研究(C)	22520773	設楽 博己	1,100,000	330,000	人物造形品の集成と分析にもとづく弥生時代の儀礼と社会組織に対する基礎的研究
基盤研究(C)	22530512	盛山 和夫	1,100,000	330,000	等依存性原理を組み込んだ公正な分配の規範的理論の構築に関する社会学的研究
基盤研究(C)	22530532	赤川 学	600,000	180,000	人口減少に対応する社会制度構想の総合的研究
若手研究(B)	21720044	太田 峰夫	500,000	150,000	二重帝国における音楽のナショナリズムと民族誌研究—ハンガリーの事例を中心に
若手研究(B)	21720253	五十嵐 大介	1,100,000	330,000	中世アラブにおけるイスラム奇進制度(ワクフ)の社会的機能
若手研究(B)	21720254	濱本 真実	1,100,000	330,000	タタル人ネットワークと中央ユーラシアの近代化
若手研究(B)	22700255	永崎 研宣	700,000	210,000	東洋古典文献学のための実験可能な研究情報共有基盤の構築に関する研究
若手研究(B)	21720222	牧原 成征	500,000	150,000	中世・近世移行期、北関東における地域社会構造の研究
若手研究(B)	22720150	梅谷 博之	500,000	150,000	モンゴル語の派生と複合の研究
若手研究(B)	22720281	佐藤 昇	900,000	270,000	古代東地中海世界国際関係におけるエリート間の紐帯に関する研究
研究活動スタート支援	22820011	大愛 崇晴	680,000	204,000	ロンドン王立協会の初期活動における音楽理論の研究
研究活動スタート支援	22820012	原田 敦史	1,110,000	333,000	筆記物語の生成と流動に関する総合的研究
研究活動スタート支援	22820014	乗松 亨平	810,000	243,000	後期ソ連〜現代ロシアの文化記号論における表象の「リアリティ」論とその社会的背景
研究活動スタート支援	22820017	佐々木 紳	1,040,000	312,000	近代オスマン帝国におけるジャーナリズムの誕生と公共的空間の形成
研究活動スタート支援	23820007	小野 泰教	1,300,000	390,000	清末士大夫官僚の対内・対外認識の新研究——郭嵩燾の「風俗」観念
研究活動スタート支援	23820009	村上 龍	700,000	210,000	ヴィクトール・バッシュ研究—ドイツ哲学の受容に努める同時代の思想的環境に於て
研究活動スタート支援	23820012	本田 貴久	800,000	240,000	20世紀初大戦間期のフランスにおける言語中心主義の文学の系譜
研究活動スタート支援	23820013	西脇 麻衣子	500,000	150,000	ドイツ語における定性・不定性表現の通時的研究
研究活動スタート支援	23820014	永澤 済	1,000,000	300,000	古文書からみる日本語史—方法論の開拓と展開
研究活動スタート支援	23820017	河原 弥生	1,300,000	390,000	ロシア帝国併合期の中央アジアにおけるターカの研究
挑戦萌芽研究	21653060	唐沢 かおり	1,300,000	390,000	問題解決場面における社会心理学方法論拡張の可能性:個人焦点の方法論を越えて

【助成金】

研究種目	課題番号	研究代表者	平成23年度 直接経費	平成23年度 間接経費	研究課題名
基盤研究(C)	23510342	姫岡 とし子	1,600,000	480,000	近代ドイツのバックラッシュとナショナリズム
基盤研究(C)	23520064	蓑輪 顕量	900,000	270,000	中世初期南都僧と禪宗の交流に関する思想的研究
基盤研究(C)	23520209	安藤 宏	1,000,000	300,000	近代文学関係定期刊物の総合的研究
基盤研究(C)	23520369	松浦 純	1,600,000	480,000	初期資料から見るルターーの思想構造
基盤研究(C)	23520370	金澤 美知子	1,800,000	540,000	近代ロシア文学の成立に見る記号としてのヨーロッパの「風景」
基盤研究(C)	23530949	高野 陽太郎	2,300,000	690,000	思考に対する外国語の妨害作用
基盤研究(C)	23520015	鈴木 聡	600,000	180,000	測定理論に基づく様々な論理の統一的基礎付けとその哲学的意義
基盤研究(C)	23520367	田口 亜紀	900,000	270,000	フランス植民地主義時代の旅行記におけるエキゾチシズムの諸相
基盤研究(C)	23520368	Marianne Simon-Oikawa	1,600,000	480,000	19-21世紀のフランスにおける詩と絵画の研究
基盤研究(C)	23520891	橋場 弦	1,800,000	540,000	古代ギリシアにおける暴力と社会秩序の比較文化史的研究
基盤研究(C)	23530625	出口 剛司	1,500,000	450,000	社会学の公共性とその実現可能性に関する理論的・学説的基礎研究
基盤研究(C)	23530816	村本 由紀子	688,331	206,500	関係性の類型と拡張自己評価維持過程
基盤研究(C)	23520366	塩川 徹也	1,500,000	450,000	『パンセ』と『キリスト教護教論』—バスカルの著作の意味と価値
若手研究(B)	23700465	星 秀夫	1,400,000	420,000	網膜で行われる「動きの予測」機能を生み出す神経回路の解明
若手研究(B)	23720024	堀内 俊郎	532,504	270,000	世親論書の訳注研究—『釈軌論』第二章を中心に—
若手研究(B)	23720361	藤崎 衛	1,200,000	360,000	中世教皇庁の行政組織編成に関する実証的研究
若手研究(B)	23720039	片岡 大右	800,000	240,000	ヨーロッパ、ネイション、文明——思想史のアプローチによる
若手研究(B)	23720070	田中まさき(池田まさき)	600,000	180,000	ソ連農村ミュージカル映画の巨匠イヴァン・ブイリエフ研究
若手研究(B)	23720172	辻部亮子(藤川亮子)	900,000	270,000	宮廷風恋愛詩における説得のレトリック分析を通じた「至純の愛」理念の再検討
若手研究(B)	23720176	竹内 恵子	500,000	150,000	亡命ロシア文学におけるアメリカ文化受容の諸相
若手研究(B)	23730269	和田 一哉	1,200,000	360,000	途上国における児童労働と教育:経済開発へのパースペクティブ
若手研究(B)	23720007	朝倉 友海	1,300,000	390,000	現代新儒家と京都学派を中心とした東アジア現代哲学比較研究
若手研究(B)	23720174	加藤 有子	800,000	240,000	大戦間期ガリツィアのポーランド系ユダヤ人作家、画家の芸術思想的系譜とモダニティ
若手研究(B)	23720379	國木田 大	1,200,000	360,000	環日本海地域における文化集団の食性変遷に関する研究
挑戦萌芽研究	23652002	高山 守	1,500,000	450,000	自由論に基づく、家族の全く新たな哲学的基礎づけの試み
挑戦萌芽研究	23652020	西村 清和	1,400,000	420,000	自然の分析美学——自然・環境・アルス
挑戦萌芽研究	23653221	横澤 一彦	800,000	240,000	視覚相互作用に基づく誤定位の生起要因に関する認知心理学的研究
挑戦萌芽研究	23652081	小林 正人	700,000	210,000	中期・近代インド・アリア語の通時的言語要覧

## (2) 奨学寄附金

平成22(2010)年度

受入れ教員	寄附者名	寄附金額(円)	寄附目的
島蘭 進	財団法人 上廣倫理財団	30,000,000	上廣死生学講座の運営
島蘭 進	財団法人 上廣倫理財団	2,000,000	「日本人の死生観と倫理観」研究のため
月本 雅幸	有限会社 クロスカルチャー出版	120,000	松村文庫準貴重書の補修費用として
小佐野 重利	株式会社 日立製作所	100,000	イタリア フィレンツェ地区の著名絵画のデジタルアーカイブを日本で紹介するための解説方法に関する研究
池田 謙一	財団法人 鹿島学術振興財団	580,000	外国人招聘研究者の招聘援助のため
國木田 大	財団法人 高梨学術奨励基金	350,000	縄文時代におけるクッキー状炭化物の研究のため
下田 正弘	財団法人 人文情報学研究所	3,300,000	次世代大蔵経研究を支援するため
下田 正弘	東京ブディストクラブ 井上 日宏	500,000	大蔵経テキストデータベース事業推進のため
水口 拓寿	財団法人 松下幸之助記念財団	500,000	「戦後台湾の文化政策における孔子廟の役割：中華文化復興運動・本土化・兩岸交流の文脈から」と題する研究
六反田 豊	財団法人 住友財団	600,000	東京大学 コリア・コロキウム事業に対する助成
近藤 和彦	財団法人 三菱財団	1,600,000	17・18世紀イギリスにおけるモラル・エコノミーと啓蒙の研究のため
蓑輪 顕量	財団法人 克念社	500,000	「仏教特に日本仏教の研究」に対する助成
蓑輪 顕量	財団法人 東海冠婚葬祭産業振興センター	1,000,000	愛知県吉良町華藏寺所蔵黄檗版一切経の悉皆調査のため
長島 弘明	株式会社 雄松堂書店	184,275	国文学研究室所蔵和漢古典籍の研究

平成23(2011)年度

受入れ教員	寄附者名	寄附金額(円)	寄附目的
島蘭 進	財団法人 上廣倫理財団	30,000,000	上廣死生学講座の運営
六反田 豊	公益財団法人 住友財団	1,000,000	東京大学 コリア・コロキウム事業に対する助成
松本 美和夫	財団法人 新技術振興渡辺記念会	1,000,000	テクノサイエンス・リスクに由来する社会的不調和を回避するための科学社会学的研究
國木田 大	財団法人 高梨学術奨励基金	500,000	縄文時代におけるクッキー状炭化物の研究Ⅱのため
下田 正弘	財団法人 人文情報学研究所	3,300,000	次世代大蔵経研究を支援するため
下田 正弘	財団法人 全日本仏教会	10,000,000	大蔵経データベース事業を中心とする人文社会学研究活動支援のため
藤井 省三	北九州市長 北橋健治	1,000,000	国際共同研究「東アジアにおける松本清張作品の受容」のため
蓑輪 顕量	財団法人 克念社	500,000	「仏教特に日本仏教の研究」に対する助成
長島 弘明	株式会社 雄松堂書店	39,600	国文学研究室所蔵和漢古典籍の研究

### (3) グローバル COE 「死生学の展開と組織化」

2007 年度より 5 年間の計画でグローバル COE プログラム「死生学の展開と組織化」(Development and Organization of Death and Life Studies) の支援を受け、教育研究拠点形成活動を行っている。これは、「国際的に卓越した教育研究拠点のための重点的支援」として選ばれたもので、2002 年度から 2006 年度にかけて行われた、21 世紀 COE プログラム「生命の文化・価値をめぐる死生学の構築」(Construction of Death and Life Studies concerning Culture and Value of Life)を引き継ぐものである。

この教育研究プログラムは、死生の文化や規範が諸文明において多様な形をとってきた歴史的事実を尊重しつつ、死生のケアや意思決定、そして人間と他の動物との関係をめぐる問題など、喫緊の諸課題に対して、それをとりまく状況全体のなかで、できる限りの多様な観点を総動員して、応答しようとするものである。医療技術の進展により、死にゆく人びとのケアの場において死をめぐる伝統的文化装置が機能しなくなり、それに代わる知や制度、実践のシステムが必要とされていること、地球規模の環境問題の発生により、人間の生死の問題が他の動物や植物などとの連関なしに捉えきれなくなっていること、こうした状況の中で、哲学・倫理から、他の人文学、そして生命科学の観点までも交えて、ケア、臨床、養育、動物倫理といった領域との有機的な結びつけのもとで「死」と「生」とを一つの学問として統合的に考察する必要がある。いま生じている。

こうした学問的要請に応えるには、(1)世界の諸文明において死生の知や実践がいかなる形を取ってきたかについての文明史的な比較研究を進め、同時に(2)倫理や実践規範に関わる理論的哲学的考察をなした上で、(3)現代世界の新たな問題に回答しうる学知を展開・組織化しなければならない。(1)は地域の限定を超えて、思想、歴史、言語、行動文化等、人文社会科学全体が深く広く関与してきた領域であり、(2)は生命倫理をはじめとする応用倫理が直面する諸問題に死生学の立場から寄与することを目指すことを含意し、哲学、倫理学はもとより、生命科学や法学との対話も必要となる。(3)は、医療や終末ケアの問題にとどまらず広く「人を養育する場」において解決が模索されている諸課題への応答を含むことから、医学、看護学、教育学、法学等との連携が不可避である。

この拠点形成のプログラムは多方面から注目され、2007 年度より次世代人文学開発センター創成部門に上廣死生学講座が設置されることとなった。グローバル COE プログラム「死生学の展開と組織化」は、この上廣死生学講座と連携しながら死生学の発展、充実のための諸活動を行っている。また、応用倫理プログラムとも連携しながら、教育・研究体制を作りあげてきており、市民生活と直結した領域に取り組むなかで、人文学を活性化し、次世代における人文学の展開の一翼を担おうとする意欲をもつ。欧米の死生学がキリスト教的、近代西洋文化的な前提をなかなか超えられない状況を見すえつつ、本拠点はアジア的な観点へも意識的に寄り添いつつ、より広い死生学を構築して、日本から世界への学問的発信を行ってきた。本死生学プロジェクトは 2012 年 3 月をもって成功裏のもと終了したが、2011 年 4 月より「死生学・応用倫理センター」がすでに発足し、本グローバル COE 死生学プロジェクトの継承拠点として新たな一歩を踏み出している。

教育の側面では、大学院を終えて博士号を取得した PD (ポスドク研究員)を中心に博士課程の大学院生が加わり、学際的、かつ国際的な研究推進の訓練を行ってきている。大学や医療機関等で死生学や生命倫理を教える専門家が求められていることに応じようとするものである。まだ専攻とはなっていないが、2007 年度より大学院修士課程・博士課程で本格的に死生学を学ぶことができるようになるし、学部段階のクラスも一段と充実したものとなってきており、学部・大学院双方のレベルで教育効果を上げてきた。

## 5. 教育・研究支援組織

### (1) 図書室

#### ■蔵書数（平成24年3月末現在）

図書	1,064,754冊（うち洋書 555,690冊）
年間受入図書冊数	21,225冊（うち洋書 12,773冊）（平成23年度）
所蔵雑誌種数	12,722種（うち洋雑誌 4,479種）
年間受入雑誌種数	1,531種（うち洋雑誌 1,049種）（平成23年度）

平成8年度から本研究科・学部の予算措置による図書重点整備補助費によって蔵書の充実を図っている。

#### ■図書資料の蔵置

図書委員会の管理・運営の下で、蔵書を以下の数カ所に分散配架しているが、将来に向けて集中化が懸案となっている。

また、以下の書庫や研究室は、いずれも書架スペースの狭隘化問題を抱えている。教育・研究の基本的な要素として構築した貴重な知的財産を有効に活用し、これらを後世に引き継ぐためにも書架スペースの狭隘化を早急に解決しなければならない。同時に、新図書館構想と関連して、図書資料の再配置を検討する必要がある。

#### 1) 2号館図書室

おもに雑誌のバックナンバー、参考図書、本研究科授与の新制（1991年度～）博士論文（課程博士）、マイクロ資料を配架。

#### 2) 3号館図書室

研究室図書の一部と叢書全集・史資料を配架。

#### 3) 貴重書庫（法文2号館書庫内）

宗教学宗教史学・美学芸術学・日本史学・国語学・国文学・インド哲学仏教学・西洋史学・言語学の各研究室の貴重書を配架。各研究室等でも相当数の貴重書を保存。

平成15年度に新貴重書庫・準貴重書庫を新設し、スペース不足は解消されたが、新・旧貴重書庫ともに、保存環境に問題が多く、その環境整備が重要な課題である。

#### 4) 各研究室

研究室の図書資料は、法文1号館・法文2号館・文学部3号館・総合研究棟（弥生地区）・アネックス（浅野地区）・赤門総合研究棟の各研究室に配架。

#### 5) 法文1号館書庫

稀用図書、考古学関係の発掘調査書、宗教学・社会学研究室の調査資料、一部研究室の卒業論文等を配架。

#### 6) マイクロ資料室（法文1号館書庫内）

中国思想文化学・インド哲学仏教学・日本史学・東洋史学・西洋史学・国語学・国文学・中国語中国文学・インド語インド文学の各研究室及び次世代人文学開発センターのマイクロ資料を配架。

#### ■サービス対応

#### 1) 3号館図書室

総合受付サービス窓口で、貸出・文献複写・現物貸借依頼受付、他大学・機関への紹介状の発行、各種申請の受付、及びレファレンスサービス等を行っている。

開室時間は、月曜～金曜の午前9時～午後9時（短縮期間中は午前9時～午後5時）。

OPAC用パソコン5台、コピー機2台を設置。

#### 2) 2号館図書室

主として2号館図書室に配架された雑誌・博士論文・マイクロ資料の閲覧・複写・貸出サービスを行っている。

開室時間は、月曜～金曜の午前9時～午後5時。

OPAC用パソコン4台、コピー機2台、本研究科・学部のカード目録（電子化以前に受入れた図書）を設置。

ここに本研究科・学部の図書業務（資料の受入・登録・製本・目録）を行う事務室がある。

#### ■最近の利用状況

	平成22年度	平成23年度
・入館者数	30,775人	25,379人
・貸出冊数	17,320冊	15,270冊
・文献複写	274,598枚	220,072枚
・参考業務	4,510件	4,615件
・相互協力	4,364件	3,242件

## (2) 漢籍コーナー

漢籍コーナーは、文学部の各研究室が所蔵する「漢籍」（中国前近代資料）を集中配架・共同利用するために、1967（昭和42）年法文2号館2階に設置された（利用開始は1970年）。2004年2月に赤門総合研究棟6階に移転し、現在に至る。中国思想文化学・中国語中国文学・東洋史学・韓国朝鮮文化・インド哲学仏教学・言語学の6研究室が所有・購入する漢籍（一部日本・朝鮮関係資料などを含む）を受け入れており、孤本・稀覯本など多数の貴重な資料や、小倉文庫（朝鮮語資料・朝鮮漢籍）・瀧田文庫（日本禅籍）といったコレクションを合わせると、10万冊を超える書籍を所蔵している。

漢籍を伝統的な四部分類法で配架した「書庫」、貴重書を保管する「貴重書庫」、および参考図書・利用者用PC・複写機を備えた「閲覧室」で構成されている。主に本学部の中国学専攻者に研究・教育・学習の場として活用されているほか、漢籍は様々な学問分野においても研究資料となるため、他学科・他部局・学外の学生や研究者にも利用されている。特に近年は閲覧が進められOPACやWeb-Catでの図書検索が可能になってきたことにより、このような外部からの利用者が増加している。

運営・管理は中国思想文化学・中国語中国文学・東洋史学・韓国朝鮮文化・インド哲学仏教学・言語学の6研究室の代表教員などで構成される「漢籍コーナー運営委員会」が行い、業務全般は教務補佐員が担当している。

2010～11年度の状況としては、まず蔵書面では、関連研究室の購入図書や科研費購入図書を受け入れたほか、個人からの大部の寄贈もあり、蔵書数は2年間で3,000冊以上増加した。また保全面では、学部の支援を得て、一部ではあるが線装本を中心に図書補修を行うことができた。2011年3月11日の東日本大震災では、固定書架の本は落下・散乱して中には破損したものもあったが、書庫の移動書架では震動を感知して落下防止バーが作動したため本が落下せず、全体として被害はごく軽微にとどまった。

これほどの量と質を備えた漢籍専門図書室を学部内に持つのは全国でも稀であり、明治以来の中国学の伝統を継承しつつアジア研究に力を入れてきた本学部ならではの施設である。今後も引き続き文学部の研究教育拠点として漢籍コーナーの整備・充実に努めていきたい。ただし近年は出版数の増加・電子資料の普及など「漢籍」の実情が変動しており、Web検索や外部利用者の増加など漢籍コーナーの状況も変わってきた。したがって今後の課題は、漢籍を資産として管理・保全しながらも、資源として多様な学問分野の研究・教育に活用していく、という二つの責務をバランスよく果たしていくことにあるだろう。

## (3) 国際交流室

1975年（昭和50年）4月、年々増加する外国人留学生に対応するため、文学部に「外国人留学生相談室」が開設され、留学生指導担当の外国人留学生アドバイザーが就任した。当時、東大の中でこのような施設を有していたのは、文学部のみであった。その後、国際交流の気運が高まるにつれ、全学レベルで国際交流委員会が設置された。これにともない、1985年（昭和60年）に、「外国人留学生相談室」は「国際交流室」と改称されて、文学部の国際交流委員会に所属することとなった。また、1992年4月には日本語教育が開始された。

2011年5月1日現在、国際交流室は、留学生指導担当講師1名、日本語教育担当専任講師1名、同非常勤講師2名及び事務補佐員2名の計6名で構成され、人文社会系研究科・文学部に在籍する166名の外国人留学生ならびに2010年及び2011年度に在籍した合計50名の外国人研究員に対して、研究・修学に関する一般的な指導と助言を行うとともに、日常生活上のさまざまな相談にも応じている。

2011年5月1日現在、人文社会系研究科の博士課程に66名、修士課程に46名、研究生として43名、文学部に学部正規生10名、特別聴講生1名の外国人留学生が在籍している。国籍・地域別にみると、その数は27ヶ国に及び、人数の内訳は韓国69名、中国50名、台湾11名、アメリカ合衆国6名、イタリア5名、シンガポール、フィンランド及びポーランド各2名、イギリス（香港）、イスラエル、インドネシア、ウクライナ、オランダ、スイス、スウェーデン、セルビア、タイ、中国（香港）、パキスタン、パラグアイ、ハンガリー、ブラジル、フランス、ベネズエラ、マレーシア、及びモンゴル各1名となっている。

人文社会系研究科における留学生の多様化に対応するため、国際交流委員会及び国際交流室が対処しなければならない課題は、多数ある。現在に至るまで、国際交流委員会及び国際交流室はこれらの課題に取り組んできたが、未解決の難問は少なくない。以下に、それらの課題の一部を列挙しておく。

1. 留学生受け入れのための規則の改正（定員等）、指導教員の負担の問題。
2. 宿舎確保の問題、奨学金問題の改善。
3. 日本語教育の充実、日本語担当教員の定員増。
4. 入国管理体制の強化及びその対応。特に、オーバードクターの在留資格の問題。

#### [国際交流室日本語教室の活動]

大学院人文社会系研究科に所属する外国人留学生の日本語教育に関する業務を行っている。具体的には、日本語学力試験の実施（新規の外国人研究生の日本語力を測るとともに授業のプレースメントテストとしても活用する）、日本語の授業および個人指導、作文集の作成、日本語関係の図書・視聴覚教材の管理・貸し出し等に当たっている。

主な活動である日本語の授業は、年2回の外国人研究生入学時期に合わせて各学期に開講し、毎学期10科目を週1コマずつ補講授業として行っている。授業時間は、学生が専門科目と並行して受講できるように専門の講義の時間帯に準じて設定している。ただし、日本語能力試験1級程度の日本語力を有する留学生が多いという当研究科・学部  
の性質上、授業はすべて中級以上である。対象は、外国人研究生を含めた当研究科・学部に所属する留学生であるが、当研究科所属の外国人研究員、外国人教師、及び学生や研究員の家族も、レベルが合えば受け入れている。また、他学系の日本語教室には上級クラスの授業が少ないという事情もあり、所属の異なる研究科の外国人留学生の受講を許可することもある。夏休みには学期の授業とは別個に受講者を募り、短期間の集中授業も実施している。

講 師 **寺田 徳子** TERADA, Noriko

#### 1. 略歴

- 1972年 3月 立教大学文学部史学科卒業
- 1978年 朝日カルチャーセンター日本語講師養成講座修了
- 1980年 日本語教育学会日本語講師養成講座修了
- 1980年 4月 日本語教育学会日本語講師養成講座教務担当 ～1981年 3月
- 1980年 9月 国際学友会日本語学校非常勤講師 ～1983年 9月
- 1980年 10月 拓殖大学語学センター日本語コース非常勤講師 ～1983年 9月
- 1983年 10月 マドラス大学印日センター客員教授（国際交流基金より派遣） ～1986年 6月
- 1986年 8月 アジア学生文化協会留学生日本語コース非常勤講師 ～1989年 3月
- 1986年 9月 外務省アジア太平洋地域外交官日本語研修計画非常勤講師 ～1989年 7月
- 1989年 4月 大東文化大学別科非常勤講師 ～1992年 3月
- 1989年 9月 国際交流基金日本語国際センター外交官コース非常勤講師 ～1997年 6月
- 1992年 4月 東京大学文学部・人文社会系研究科講師 ～現在

#### 2. 主な研究活動

##### (1) 主要業績

著書 『しっかり学ぼう日本語基礎』山下暁美氏と共著・双文社 467頁 1997.

#### 3. 主な教育活動

##### (1) 日本語教育に関する業務一般

###### 1) 日本語授業の授業計画の作成

各学期の授業及び集中授業の計画を作成する。非常勤講師と話し合い、必要に応じて科目や内容を決定する。

###### 2) 新規外国人留学生への学力試験の実施

当研究科の外国人研究生の日本語力をはかるため、当日本語教室独自の試験を実施している。

###### 3) 個人指導

留学生として当研究科・学部に在籍している学生は誰でも利用できる。学生の要望に応じて予約制で受け付けるが、取り扱う内容は、日本語に関する質問から、ゼミ発表の練習、レポート・論文の添削まで様々である。

###### 4) 作文集の作成

年度末に一年間の日本語教室で書かれた作文・小論文および投稿作品をもとに、作文集『ぎんなん』を発行している。以前は学期ごとの発行であったため、最新号は26号である。

###### 5) 講師会の開催

日本語の授業では、それぞれの授業の担当者の連携が大切であるため、定期的に非常勤講師と話し合う講師会を開き、そこで話し合ったことを授業計画に生かすようにしている。

###### 6) その他

日本語教室の所有する図書・教材等の貸し出し。日本語学習に関するアドバイス等。

##### (2) 日本語授業

## 1) 通常授業

2010・11年の授業のうち、担当した科目は以下の通りである。特に期間が限定されたものは〔 〕に記した。レベルを設定した科目が多いが、専門科目と並行して受講する学生のために柔軟な対応を心がけている。

- ① 読解Ⅰ(中級)： 初級知識の定着と中級読解能力の養成を目的とする。書き言葉の語彙や文型の定着も図る。
- ② 読解Ⅱ(上級)： より長い文章の内容や要点を把握させる。また、読みのスピードアップも図る。
- ③ 文章表現Ⅰ(中級)： 作文の基本的な知識と、研究に役立つ文章の書き方を指導する。
- ④ 文章表現Ⅱ(上級)： 論文・レポート等、アカデミックライティングの指導を行う。
- ⑤ 漢字学習(中級～上級)： 非漢字圏の学生はもとより漢字圏の学生も対象とし、日本語としての漢字の読み書き、漢字語彙の使い方等を定着させる。
- ⑥ 読解Ⅳ〔冬学期のみ〕： 外国人研究生の大半が大学院への進学をめざしていることから、受験のための読解練習を行う。
- ⑦ 文法(中級)〔2010年夏学期〕： 基本的で混乱しやすい文法事項、正しい文の書き方、文章によく使われる文型等を指導する。
- ⑧ 口頭表現B〔2011年夏学期〕： 日本語によるプレゼンテーションやディスカッション能力の向上をめざす。

## 2) 夏期集中授業

夏休みに開講した5～6科目のうち、担当した科目について記す。

### 2010年度

- ① 口語文法： 日本文でよく使われる文型の意味と使い方を具体的に指導した。
- ② テレビで学ぶ日本・日本語： テレビ番組のVTRやDVDを教材に、日本語の特徴や日本事情を学んだ。

### 2011年度

- ① 口語文法： 前年の内容に加え、日本語の文章の展開で重要な接続表現も指導した。
- ② 短編名作読解： 井伏鱒二の「山椒魚」、宮沢賢治の「注文の多い料理店」を読み、感想を話し合った。

### ◇ 主要学内委員

国際交流委員会オブザーバー

講師 **安田 京子** YASUDA, Kyoko

## 1. 略歴

1978年3月	早稲田大学法学部卒業
1981年6月	ハーバード・ロー・スクールLL.M.コース修了
1991年2月～1994年3月	東京大学留学生センター留学生相談室非常勤相談員
1996年4月～1997年3月	東京大学文学部国際交流室教務補佐員
1997年4月	東京大学文学部講師(外国人留学生アドバイザー)

## 2. 主な教育活動

### (1) 留学生等相談関係

#### 1) 勉学関係

大学院進学に関する相談、休学に関する相談、入学希望者の来室・電話・手紙・e-mail等による相談、教員からの大学院研究生及び外国人研究員受け入れに関する相談、国費留学生の転科、帰国に関する相談、等。

#### 2) 生活関係

奨学金に関する相談、授業料納入に関する相談、宿舎に関する相談、ビザ取得及びビザ変更に関する相談、精神的問題に関する相談及び専門家へのリファール等。

### (2) 教務関係

#### 1) 留学生全般関係

外国人留学生名簿作成、奨学金申請用紙の配布及び申請の取りまとめ、各種留学生用宿舎の入居申請書の配布及び申請の取りまとめ、見学旅行・懇親会の通知発送及び参加申し込みの取りまとめ、等。

#### 2) 大学院外国人研究生関係

入学願書配布及び受け付け、審査結果通知発送、入学手続き(4月及び10月)、入学ガイダンスの実施(4月及び10月)、研究期間延長手続き、研究事項証明書発行、チューターの選定依頼及びその取りまとめ、等。

#### 3) 国費留学生関係

大学推薦・国内採用による国費留学生の申請手続き、各種手続き、等。

#### 4) 外国人研究員関係

外国人研究員の申請受け付け・許可証明書及び身分証明書の発行、研究者用宿舎の入居申請書の配布及び申請の取りまとめ、等。

#### (3) その他

外国人留学生・外国人研究員との懇親会（6月）、外国人留学生見学旅行の引率（11月）、国費留学生及び学習奨励費受給者の在籍簿取りまとめ（毎月）、東京大学外国人留学生特別奨学制度受給者の在籍確認取りまとめ（4月、7月、10月及び1月）、在留資格認定証明書交付申請用紙の配布、申請書類作成及び取りまとめ、在留資格期間更新手続関係書類の作成、等。

#### ◇ 主要学内委員

国際交流委員会オブザーバー

### (4) 教育研究情報管理室

教育研究情報管理室（以下、情報管理室と呼ぶ）は、本研究科・本学部をとりまく以下の状況を踏まえ、2009年度に設置された。

すなわち、大学法人化に伴い中期目標・中期計画書や、その達成度等の評価判断の目安とされる現況調査表・教育研究実績報告書を定期的に作成し提出することが義務づけられた一方、社会からは教育研究に関わる各種情報を公開し、また教育研究内容の広報活動を推進することが強く要請されている。

その要請に応えるために、情報管理室は、特に教育研究に関わる情報・資料等を部局として集積し、かつ電子データとして一括管理し、上記のような報告書・資料の作成作業の効率化を図るとともに、機密性の高い情報を管理する上での高度のセキュリティ対策を構築していくように努力している。

なお、情報管理室の設置に伴い、a)視聴覚教育センター b)情報メディア室は分室となった。

構成員：室長 小佐野重利

講師 石川洋

事務補佐員 中川藍子（～2011.4）・松原道子（2011.4～）

#### a) 視聴覚教育センター

教務補佐員 菅家健一

教務補佐員 木村京子

事務補佐員 小国浩一

#### b) 情報メディア室

助教 西川賀樹

事務補佐員 堂前香織

講師 **石川 洋** ISHIKAWA, Hiroshi

### 1. 略歴

1986年3月 東京大学文学部東洋史学専修課程卒業

1986年4月 東京大学大学院人文科学研究科東洋史学専攻修士課程入学

1989年3月 東京大学大学院人文科学研究科東洋史学専攻修士課程修了

1989年4月 東京大学大学院人文科学研究科東洋史学専攻博士課程進学

1994年3月 東京大学大学院人文科学研究科東洋史学専攻博士課程単位取得のうえ退学

1994年4月 東京大学文学部助手

1995年4月 東京大学大学院人文社会系研究科助手（漢籍コーナー担当）

2010年4月 東京大学大学院人文社会系研究科講師（教育研究情報管理室・視聴覚教育センター担当）

### 2. 主要研究業績

#### (3) 著書

共著、東京大学東洋文化研究所図書室編『はじめての漢籍』、汲古書院、2011.5

### 3. 主な社会活動

#### (1) 他機関での講義等

関東学院大学非常勤講師（法学部教職課程外国史担当）、2010・2011

## A 視聴覚教育センター

総合図書館の5階にある文学部視聴覚教育センターは、1964年、図書館の「総合化」の一環として、語学教育と非文字資料の収集・利用を行うことのできる施設の設置・運営が文学部に委託されて発足したものであり、語学教材や映画・古典芸能等の音声・映像資料を作成・収集して全学の利用に供するとともに、本研究科・学部の視聴覚設備の整備、視聴覚機器やパソコンを必要とする教育・研究のサポート、本研究科で行われるさまざまな講演やシンポジウム等の録画とアーカイブ化を行っている。

2009年4月より視聴覚教育センターは、本研究科・学部の教育研究情報管理室の分室として位置づけられた。これにより教育研究情報管理室・情報メディア室・大学院係・教務係等とより緊密な連携をはかり、本研究科・学部全体の教育研究体制を見渡しながらか、視聴覚面での研究・教育に貢献してゆく環境が整えられた。

また2009年度には国の補正予算による財政支援も得て、視聴覚教育センター内の教室の大改修を行った。これは、センター第1第2教室と称していた2語学教室(各25名収容)を、設置されていたLL装置が20年も前に導入されたカセットタイプ式のもので、近年ではあまり利用されなくなっていたため、仕切りの壁を撤去して50名収容の1教室(「視聴覚教育センター第1教室」と改称)に改修し、床はOAフロアとし、OHCやプロジェクター、DVDプレーヤー、VHSデッキ等を導入して、語学教室としてだけでなく、多目的な用途に利用できる演習室としたものである。これにより、さまざまな視聴覚資料を活用した講義・演習・研究会等が可能になったばかりでなく、学生のプレゼンテーション・スキルの向上にも資することができるようにし、さらに2010年度末には床下にLANケーブルを敷設してインターネットを利用した授業も出来るようにした。改修後のこの2年間では、語学授業の他、映像を活用する美術史学や国文学の講義、受講生がインターネットを使用する講義・演習などで利用されている。また2011年4月22日発行の『学内広報』No.1411に「文学部視聴覚教育センター改修のお知らせ」を掲載して、以上の改修を全学に広報した。

なお、こうした施設の更新を機に、2010年10月には文学部教授会において、1984年制定の「東京大学文学部附属視聴覚教育センター運営委員会規程」及び当センター利用規定・利用細則が全面的に見直され、新たに「東京大学大学院人文社会系研究科・文学部視聴覚教育センター規則」「同利用規程」「同利用細則」が定められた。

視聴覚教育センターの重要な業務に、法文1・2号館の教室に備え付けられた視聴覚機器の保全・更新と、それらの機器を利用した授業のサポート(新学期当初、機器の扱いに不慣れな教員に技術指導をしたり、機器の故障に対応したり)がある。2010年夏には、法文2号館2番大教室のプロジェクターを更新し、さらに同1番大教室との通線工事を行って、1番大教室の音声・映像を簡単に2番大教室に送れるようにした。これは、進学者ガイダンスや講演・シンポジウム等において、参加者を1番大教室で収容しきれない場合、2番大教室でモニター中継する必要がある、近年とみに増している事態に対応したものである。

法文1号館の教室のAV機器類は、予算の都合で継ぎ足しを重ねてきたため、教室間の機器の整合性がない上に、老朽化が進んでトラブルが頻発している。今後文学部の予算状況は厳しくなると予想されるので、実際にAV機器を利用して授業を行っている教員の要望や機器更新の喫緊度を把握し、限られた予算をより有効に生かしてゆくために、2011年1月には「文学部教室の視聴覚機器・設備の利用状況等に関するアンケート」を行った。その結果も参考にし、順次教室AV機器類の更新・整備を進めている。

視聴覚教育センターでは、文学部で行われるさまざまな講演やシンポジウム、退職教授の最終講義等の録画も行っている。たとえば2011年6月22日に1番大教室で行われた、2010年度ノーベル賞文学賞受賞者のマリオ・バルガス＝リョサ氏の講演「文学への情熱ともうひとつの現実の創造」(これは2番大教室にモニター中継)。10月29日に東京大学ホームカミングデーの文学部企画として開催された、菅野昭正名誉教授による講演とシンポジウムなどである(この二つの講演は広報委員会を通して東大TVで公開されている)。ただ、人手不足のため、これらの貴重な映像資料の整理・アーカイブ化まではなかなか進んでいないのが現状である。

またセンター開設以来今日まで、6,200点にもおよぶ音声・映像資料を蓄積しており、語学教材をも含むこれらの資料は、授業で利用されているほか、センター内の自習室において、全学の学生・教職員の利用に供している。

## B 情報メディア室

l\_cnc@l.u-tokyo.ac.jp

WEB : <http://www.l.u-tokyo.ac.jp/MediaCenter/>

情報メディア室は、文学部の計算機システムおよびキャンパス LAN の運用管理を行うことを目的として、1996 年に設立された。現在、情報メディア室では、次の 2 つの業務を行っている。

1. 文学部内の情報システムに関する運用管理
2. 多分野交流演習事務局

### 1. 情報システムの運用管理

情報メディア室は、視聴覚教育センターと協力して、文学部の教育・研究用計算機システム、キャンパス LAN システムの運用管理を行っている。

#### 1) 教育・研究用計算機システムの運用

文学部は、教育研究用計算機システムとして、Sun Ultra WS×2 台、HP ProLiant Server×7 台、Dell PowerEdge×1 台を管理・運用し、文学部・大学院人文社会系研究科構成員に対して、電子メールサービス、ホームページサービスをはじめとする一般的なアカウントサービスを提供している。本システムは、約 600 ユーザを抱えている。

#### 2) 文学部 WWW サーバの運用

情報メディア室では、文学部全体の WWW サーバシステムの運用を行っている。WWW サーバからは、事務局や広報委員会、また個々の各研究室・教官・学生からの発信情報があり、これらに対して共通の情報発信システムを提供している。

#### 3) 文学部 LAN の NOC (Network Operation Center) 機能

情報メディア室では、文学部のネットワーク運用センター (NOC: Network Operation Center) 機能として、以下の業務を行っている。

- (a) 基幹ネットワークの良好な通信状態の維持
- (b) webmaster/postmaster 機能
- (c) ネームサーバの運用
- (d) DHCP による IP アドレス自動割当サービス
- (e) 電話アクセスポイントサービス

を行っている。

#### (a) 基幹ネットワークの運用

情報メディア室では、文学部の構成員が居住する主要な建物である、法文 1 号館、法文 2 号館、文学部 3 号館、農学部総合研究棟、アネックス、赤門総合研究棟におけるローカルエリアネットワークの基幹部分 (研究室や教官居室の外部) の管理運用を担当している。これらの建物における、物理的なネットワーク配線、ネットワーク通信を中継するために設置されたハブやスイッチなどの機器を運用管理し、研究室からキャンパス LAN である UTnet までの通信経路における良好な通信サービス提供のための活動を行っている。

#### (b) webmaster/postmaster 機能

情報メディア室では、広報委員会および事務局と協力し、インターネット上の文学部の問い合わせ、苦情等の窓口業務を行っている。文学部が提供する各種情報に関する問い合わせは、web-master@l.u-tokyo.ac.jp 宛に届くことが多い。このメールを、学部内の担当部署への転送、広報委員会への連絡業務を行っている。また、セキュリティ上の問題や、文学部内から外部に向けてなんらかの被害をもたらす動作を行った場合の苦情等は、postmaster@l.u-tokyo.ac.jp 宛に届くことが多いが、ここに届いた連絡事項の対応も行っている。

#### (c) ネームサーバサービス

文学部 LAN が機能するために必要な、ネームサーバ (DNS: Domain Name Server) の運用を行っている。

#### (d) DHCP による IP アドレス自動割当サービス

文学部 LAN に接続するコンピュータに対して、IP アドレスの自動割当サービスを、すべての建物において実施している。これによって、コンピュータに明示的なアドレス割当を行わなくとも、文学部 LAN に接続して利用できる利便性を提供している。

(e) 電話アクセスポイントサービス

文学部 LAN に対して、自宅等から電話回線によってアクセスする環境を提供している。現在、ISDN、PHS (PIAFS32, PIAFS64)、56K アナログモデムによるアクセスを提供している。

4) 文学部 LAN の NIC (Network Information Center) 機能

情報メディア室では、文学部 LAN のネットワーク情報センター (NIC: Network Information Center) 機能として、lu-tokyo.ac.jp 以下のドメイン名割当管理、IP アドレス割当管理を行っている。

5) セキュリティ対応

近年、大学内もインターネット経由による不正アクセス等が多くあり、学部内でも多くの被害がでている。そのため、

- ・文学部のメールサーバにウイルスチェックソフトウェアを導入し運用
- ・文学部 LAN 全体を囲むファイアウォールを設置・運用
- ・各種セキュリティ対策情報を学部内に配布

など、セキュリティ対応業務を行っている。

6) 文学部内の研究活動支援

情報メディア室では、文学部構成員全体への情報サービスだけでなく、文学部の各教員の研究教育活動の支援として、各研究プロジェクトの情報発信支援、研究用コンピュータの運用管理、連絡用のメーリングリストの提供なども積極的に行っている。

7) 文学部内データセンタの運用

各教員の教育実績や研究業績をまとめ、点検評価に用いるためのデータベースシステムの運用管理を行っている。

## 2. 多分野交流演習事務局

情報メディア室では、多分野交流演習の事務局を担当し、多分野交流演習の予算管理・執行業務、多分野交流演習ニュースレターを定期的に発行している。

## 3. 助教の活動

助 教 **西川 賀樹** NISHIKAWA, Yoshiki

### 1. 略歴

在職期間 2010年4月～現在

研究領域 オペレーティングシステム・システムソフトウェア

## 6. 情報化と広報

### (1) IT化

人文社会系研究科・文学部の情報化（IT化）は過去2年間着実に進歩した。人文社会系研究科・文学部ホームページをリニューアルし、CMS（Content Management System）の導入を行った。それにより、特別な知識を必要とせずにホームページの編集を行えるようになったことで、広報委員会・事務局・研究室等からさらに多くの情報が発信されるようになった。また、Webサイトを持つ研究室の数も着実に増え続け、アクセス数は増加の一途をたどっている。

IT化の負の側面としては、迷惑メールやウイルスメールなどの問題があるが、情報メディア室を中心として防御体制を固めており、これまでのところサーバに大きな被害を受けることはなかった。また、本部・情報基盤センターで進めている全学迷惑メール対策プロジェクトに協力し、今後の人文社会系研究科・文学部における新たな迷惑メール対策について検討を進めた。

### (2) 広報活動

人文社会系研究科・文学部の広報活動は広報委員会が中心になって行っている。主な活動は、1) 多言語化されたホームページによる情報発信、2) 文学部進学者のための『進学ガイダンス』の作成、3) 高校生向けのオープンキャンパスの企画・実行、4) ホームカミングデイの企画・実行、5) 広報用カレンダーの作成、6) 全学広報委員会との連携などであり、多岐にわたっている。

このような広報活動により、オープンキャンパスやホームカミングデイの参加者は増加の一途をたどっているが、さらに刊行物の発行やホームページの充実などにより、人文社会系研究科・文学部の活動が在校生、卒業生、一般の方々を問わず、広くご理解頂けるように努力を続けている。特に、ホームページは9言語に対応するように拡充し、人文社会系研究科・文学部が目指す国際化を体現している。

<2010・2011年度オープンキャンパス企画>

2010年度

参加者数：模擬講義 490名、学生による発表 190名、見学ツアー 260名、質問コーナー・教員著書展示 280名、にんぷろかるた 70名、総計 1290名（いずれも概数）

企 画：1. 文学部の概要説明

2. 模擬講義 下田 正弘(インド哲学仏教学) 「古代インド仏教の世界観」  
野谷 文昭(現代文芸論) 「世界×ラテンアメリカ×文学」

3. 学生による発表 文学部在学学生 「学生が語る文学部の魅力」

4. 文学部見学ツアー

ツアー ①哲学研究室  
②東洋史学研究室  
③国文学研究室  
④社会心理学研究室  
⑤三号館図書室

5. 質問コーナー・教員著書展示（文学部教員及び学部学生）

6. にんぷろかるた

2011年度

参加者数：模擬講義 460名、模擬ゼミ 124名、見学ツアー 122名、教員著書展示(学生による著書紹介) 396名、文学部多言語ホームページ体験コーナー 468名、総計 1570名（いずれも概数）

企 画：1. 文学部の概要説明

2. 模擬講義 佐藤 健二(社会学) 「ことばで伝える/ことばで感じる/ことばで考える」  
菅野 覚明(倫理学) 「日本人の自画像」

3. 模擬ゼミ 文学部在学学生 「ゼミって何？」

4. 文学部見学ツアー

ツアー ①心理学研究室、西洋史学研究室  
②西洋史学研究室、心理学研究室  
③言語学研究室、三号館図書室  
④三号館図書室、言語学研究室

5. 教員著書展示（学生による著書紹介）

6. 文学部多言語ホームページ体験コーナー

## <2010・2011年度ホームカミングデイ企画>

### 2010年度

参加者数：講演および座談会 98名

- 企画：1. 講演 久保田 淳 名誉教授 (国文学) 「古典と向きあう」  
2. 座談会 「古典を読む楽しみと苦しみ」  
久保田 淳 名誉教授 (国文学)  
逸身 喜一郎 名誉教授 (西洋古典学)  
渡部 泰明 (国文学)

### 2011年度

参加者数：講演およびシンポジウム 190名

- 企画：1. 講演 菅野 昭正 名誉教授 (フランス語フランス文学) 「文学の明日を考える」  
2. シンポジウム 「現代文学における『私』をめぐって」  
菅野 昭正 名誉教授 (フランス語フランス文学)  
安藤 宏 (国文学)  
柴田 元幸 (現代文芸論)  
野崎 敏 (フランス語フランス文学)

## 7. 公開講座

### (1) 布施学術基金公開講演会

布施学術基金公開講演会「東洋の文化」第18回、第19回

布施学術基金公開講演会は、故布施郁三博士から人文社会系研究科・文学部に寄付された布施学術基金による、もっとも中心となる事業の一つであり、「東洋の文化」の共通テーマで毎年1回開催されている。

第18回は2010年5月27日(木)午後4時～5時30分、文学部一番大教室において、本学名誉教授笹山晴生氏(日本史学)を講師として招き、「藤原良房の史的 position ——時代の転機に果たした役割——」と題してご講演いただいた。

笹山氏は、九世紀中葉、貴族政権の成立や国風文化の形成という日本古代の大きな転機に、太政大臣藤原良房はどのような役割を果たしたのかというテーマに関して、残された史料からはよく見えないその実像について、政治・社会・文化・思想など様々な角度から検証し、藤原良房の史的 position 付けについてお話いただいた。

第19回は2011年5月26日(木)午後4時～5時30分、文学部一番大教室において、本学名誉教授二木宏明氏(心理学)を講師として招き、「アルコールと脳を巡って」と題してご講演いただいた。

二木氏は、アルコールについて、「アルコールはムードを変える薬物である」という考えから、アルコールと脳内作用機序、アルコールと睡眠、アルコールと不安・恐怖、飲酒による多幸感、アルコールと記憶等々、私たちの身近に存在しているアルコールと脳を巡るテーマについて平易に解説されるとともに、氏が専門とするアルコール感受性に関する遺伝子レベルでの研究についても触れていただいた。

### (2) 東京大学コリア・コロキウム

東京大学大学院人文社会系研究科韓国朝鮮文化研究専攻においては、教育研究活動を行うとともに、社会に対して当該地域に関する様々な情報を発信したいという希望のもと、2003年度から標記のコロキウムを開催している。本コロキウムは、激動を続ける韓国朝鮮およびこの地域をとりまく北東アジア情勢に対応し、あらたな提案を行ってゆくためには、同地域に関する理解を一層深めることが要請されるとの考えから企画されたものである。このような観点から、当コロキウムでは韓国朝鮮および周辺地域に関わるさまざまな分野の専門家、外交官、官僚、政治家、研究者、社会活動家などを東京大学に招き、忌憚りの無い意見表明をお願いし、質疑応答を行うことで理解を一層深める機会を社会に向けて創出してゆくことを目的としている。講演は年に数回行っている。講演の内容については、『東京大学コリア・コロキウム講演記録』として年度ごとに発行している。なお、本コロキウムは公益財団法人住友財団の助成事業として運営されている。2010-2011年度の開催の実績は以下のとおりである。

#### 2010年度

第1回 2010年6月25日(金) 18時30分～20時

講演者：具海根氏 (ハワイ大学教授)

講演題目：世界化と韓国社会の変化—中産層の変化を中心に—

- 第2回 2010年7月23日(金) 18時30分～20時  
 講演者：朴銀順氏 (徳成女子大学校教授)  
 講演題目：儒学的理想の表象—朝鮮時代の実景山水画—
- 第3回 2010年11月5日(金) 18時30分～20時  
 講演者：ケネス・ロビンソン氏 (国際基督教大学上級准教授)  
 講演題目：朝鮮初期の朝日関係史にみる朴敦之
- 第4回 2010年12月3日(金) 18時30分～20時  
 講演者：白川豊氏 (九州産業大学教授)  
 講演題目：朝鮮近代の文豪、廉想渉とその文学
- 第5回 2011年1月28日(金) 18時30分～20時  
 講演者：權斗煥氏 (東京大学客員教授・ソウル大学校教授)  
 講演題目：思悼世子の涙—岳父洪鳳漢に送った手紙—

#### 2011年度

- 第1回 2011年9月21日(水) 18時30分～20時  
 講演者：濱田耕策氏 (九州大学教授)  
 講演題目：新羅の東・西津から国家の体制を考える  
 ※台風の影響により中止。
- 第2回 2011年10月26日(水) 18時30分～20時  
 講演者：五味洋治氏 (東京新聞外報部)  
 講演題目：中国と北朝鮮の関係を讀みとく—愛憎の60年と今後—
- 第3回 2011年11月16日(水) 18時30分～20時  
 講演者：吉田宏志氏 (京都府立大学名誉教授)  
 講演題目：朝鮮の石の美術、並びに文化について
- 第4回 2011年12月14日(水) 18時30分～20時  
 講演者：金旼奎氏 (東北亜歴史財団研究委員・東京大学外国人研究員)  
 講演題目：19世紀後半の東アジアの国際秩序の変容
- 第5回 2012年2月22日(水) 18時30分～20時  
 講演者：濱田耕策氏 (九州大学教授)  
 講演題目：新羅の東西交易体制—倭典と綿(まわた)に焦点を当てて—

### (3) ところ公開講座

東京大学文学部で附属北海文化研究施設の所在する北海道常呂町(現・北見市)において2000年より公開講座を開催している。現在まで通算では15回になるが、地元自治体と共催での公開講座としては14回開催している。講師は基本的に文学部の教員であるが、一部他研究科の教員にも参加していただき、幅広い話題提供を心がけている。最近では、従来の一般向け以外に、常呂高校に於いて高校生を対象とした講演もおこなっている。(講師所属は講座開催時のもの)

#### ◆第15回 東京大学文学部公開講座

##### <常呂高校特別講座>

2011/06/10 (金) 13:30-14:40 北海道常呂高校 (共催)

「ことばで伝える／ことばで感じる／ことばで考える」

佐藤 健二 (東京大学 大学院人文社会系研究科 教授)

##### <留辺蘂公開講座>

2011/06/11 (土) 14:00-15:40 留辺蘂町公民館

「弥生時代の北海道」

設楽 博己 (東京大学 大学院人文社会系研究科 教授)

##### <北見公開講座>

2011/06/11 (土) 18:30-20:10 北見芸術文化ホール

「引用と変奏 -日本美術の作られ方-」

佐藤 康宏 (東京大学 大学院人文社会系研究科 教授)

◆第14回 東京大学文学部公開講座

<常呂高校特別講座>

2010/10/08 (金) 13:30-14:30 北海道常呂高校 (共催)

「翻訳という仕事」

柴田 元幸 (東京大学 大学院人文社会系研究科 教授)

<北見公開講座>

2010/10/08 (金) 18:00-20:40 北見芸術文化ホール

「世界遺産と日本史学」

佐藤 信 (東京大学 大学院人文社会系研究科 教授)

「源氏物語に描かれた夫婦愛」

藤原 克己 (東京大学 大学院人文社会系研究科 教授)

**(4) 文学部公開講座**

東京大学大学院人文社会系研究科・文学部では、これまで北海道北見市で行ってきた「ところ公開講座」を、より多くの方に参加いただけるよう 2011 年度から本郷キャンパスにおいても「文学部公開講座」として開催することとした。これは、大学院人文社会系研究科・文学部において行われている教育及び研究の成果を積極的に公開していくとともに、社会連携をより一層深めることを目的としている。

◆第 1 回東京大学文学部公開講座 2011 年 10 月 15 日(土) 14 時—15 時 30 分

「引用と変奏——日本美術の作られ方」

講 師 : 佐藤康宏教授 (美術史学)